

# 西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第525号 令和2年1月・2月



『元日のダイヤモンド富士』（多摩川左岸の日野橋梁付近の土堤より） 神尾 重則

## 目 次

|                | 頁          |                                       | 頁         |
|----------------|------------|---------------------------------------|-----------|
| 1) 新年のご挨拶      | 玉木一弘 … 2   | 11) 連載企画                              | 栗原教光 … 26 |
| 2) 保健所だより      | 西多摩保健所 … 6 | 12) 第18回西多摩医師会臨床報告会の<br>ご案内及び演題募集について | 学術部 … 27  |
| 3) 専門医に学ぶ      | 謝 毅宏 … 10  | 13) 学術講演会予定                           | 学術部 … 28  |
| 4) 学術講演会抄録     | 学術部 … 13   | 14) 理事会報告                             | 広報部 … 29  |
| 5) 多摩医学会講演会    | 学術部 … 13   | 15) 会員通知・医師会の動き                       | 事務局 … 33  |
| 6) 災害医療図上訓練報告  | 江本 浩 … 17  | 16) お知らせ                              | 事務局 … 38  |
| 7) 西多摩保健所開所式報告 | 玉木一弘 … 21  | 17) 表紙のことば                            | 神尾重則 … 38 |
| 8) 医師会写真・絵画展   | 写真部 … 22   | 18) あとがき                              | 神尾重則 … 38 |
| 9) 忘年クリスマス会    | 総務部 … 24   |                                       |           |
| 10) 広報だより      | 進藤幸雄 … 25  |                                       |           |



## 2020年、年頭にあたって

西多摩医師会 会長 玉木 一 弘

会員の皆様、謹んで新年のお慶びを申し上げます。また平素より地域医療へのご尽力や本活動へのご協力に、心より感謝申し上げます。本年もまた西多摩医療圏の直面する様々な課題とともに、オリンピック・パラリンピックを契機とした感染症や外国人の方々への医療提供等への課題を的確に捉え、最善を尽くしたいと存じますのでよろしくお願い致します。

さて本年度の診療報酬改定に関して国は以下の基本事項を挙げています。

### 【基本認識】

- 健康寿命の延伸、人生100年時代に向けた「全世代型社会保障」の実現
- どこに住んでいても適切な医療を安心して受けられる社会の実現

### 【基本方針】

- かかりつけ機能の評価
- 患者への情報提供や相談支援、重症化予防の取り組みの推進
- 医療におけるICTの利活用
- 医療機能の分化・連携と地域包括ケアシステムの推進
- 医師・院内薬剤師と薬局薬剤師の協働の取り組みによる医薬品の適正使用の推進

どのように医療報酬に反映されるのかはまだ分かりませんが、今、この地域と私たち医療提供者に求められている課題そのものであることは確かです。

これまで度々申し上げました通り、西多摩の喫緊の課題は、少子・高齢化・生産年齢人口減による、生活インフラや地域経済の縮小、医療総需要の高齢化と将来減少推計に応じた医療・介護機能と生活を支える街機能を確立、維持することにあると存じます。

同時に国や自治体の施策と同期し、住民自らの能動的な健康作り活動による生活習慣病・要介護状態の発症・重症化予防からの健康寿命延伸と、地域包括ケアを支柱に病や障害を得てもなお人生100年の達成を希求できる、活力ある地域と成ることを願って止みません。

上記を踏まえ、以下、その他課題の進捗や今後の方向性につき申し述べます。

### ◇本年6月までの今期執行部任期中に重点的に取り組みたい課題

これまで向き合いつつも充実に至っていない課題です。ご協力をお願い致します。

#### 【医師会業務の効率化・見える化の推進】

- 医師会業務プロセスの標準化
- 医師会文書の階層化とクラウド化
- 業務・決済等ICT化・ペーパーレス化
- 会員の都医文書管理システム活用推進

#### 【災害時医療体制・連絡網の整備推進】

- 医師会BCP(災害時事業継続計画)に、災害時要配慮者支援活動手順を加え充実
  - MCS(メディカルケアステーション:多職種ネットワーク)活用による災害連絡網の充実
- 災害時全会員安否・救護所出務・医療機能状況確認・多職種要配慮者支援チーム連絡網等

#### 【MCS多目的活用による医師会・行政・各種関連団体事業間の相互連絡・参画の推進】

#### 【地域住民に対するHPでの広報活動の充実】

- 西多摩医師会公益事業内容・住民向け情報・市民公開講座・健康教室等の広報充実

◇地域医療構想調整会議の進捗：公立病院再編統合と外来医療機能の不足・偏在への対応

本年度の地域医療構想調整会議に併せ、くしくも国は公立病院再編統合が必要な424公立病院リストを公表し、公立奥多摩病院も挙げられました。また外来医療機能の不足・偏在地域としても、都内で唯一西多摩医療圏が挙げられました。これを如何に捉え如何に対応するかは、公立病院と運営母体である各自治体、そして我々民間の事業者、公益事業体としての医師会が、「高齢化の進展」や「地域医療構想による病床の機能分化・連携」に伴う圏域医療需要の将来像を共有し、集約と創造に協働できるかにかかっています。

病床・介護施設約15,000床は西多摩地域経済の基幹分野であり、増加が推計される在宅療養者が、応急・リハビリ・レスパイト等の各病床機能を繰り返し利用できる「循環型療養基盤構築」による地域包括ケアの確立、外国人看護師・介護職を含む人材の戦略的確保も重要かつ喫緊の課題と言えます。

西多摩地域医療構想調整会議では、奥多摩病院の果たす役割として、他の救命救急はじめ各病床機能医療機関までの搬送に時間を要す立地にあつて、急性期から慢性期、在宅医療までのへき地医療拠点として包括的地域医療を担うとともに、今回の風雨災害に見られたように孤立リスクが高い奥多摩地域の災害医療拠点としても、無くてはならない病院であることを確認する議論が成されました。

全国的に重大な課題である医師の偏在と外来医療機能不足については、地域ごとに不足している機能を協議する場を設置し、外来医師多数区域の新規開業希望者に対しては、協議の内容を踏まえて、在宅医療、初期救急（夜間・休日の診療）、公衆衛生（学校医、産業医、予防接種等）等の地域に必要とされる「かかりつけ医」医療機能を担うよう求めるとの方向性が示されています。また生活圏内の日常の通院先としての眼科・耳鼻科・皮膚科・小児科等々の専門単科開業医が不足しがちであることもたしかな課題です。

実際の様な施策が取られるかについては現時点で明らかではありませんが、国や都道府県が過剰地域から不足地域に、開業希望者をいざなう仕組みが導入される可能性も否めません。開業の自由と職業的自立規範を尊重し、現場の意見を反映したものであって欲しいものですが、今後議論が尽きぬところでしょう。

西多摩の医療需要からも、地域医療に幅広く貢献する「かかりつけ医」の確保は必要です。しかしその様な医師は公が育成して派遣するものではなく、地域医療の中で経験と研鑽を積み、医師会活動の中で磨かれ育まれる医師像であろうと思えてなりません。医師会の責務は、その育成の母体を地域で堅持することにこそあるのだと考えます。

**③外来医療機能の不足・偏在等への対応**

**現状**

- 外来患者の約6割が受診する**無床診療所**は、開設が**都市部に偏っている**。
- また、地域における救急医療提供体制の構築、グループ診療の推進、放射線装置の共同利用等の**医療機関の連携の取組**が、個々の医療機関の**自主的な取組に変わっている**。

人口10万人対無床診療所数

| 特別区     | 政令市   | 中核市 | その他 |
|---------|-------|-----|-----|
| 1位: 東京都 | 248.8 |     |     |
| 2位: 大阪府 | 123.1 |     |     |
| 3位: 北海道 | 32.9  |     |     |
| 4位: 北海道 | 26.5  |     |     |

**制度改革案**

**外来医療に関する協議の場を設置**

小児科が必要な救急・救急後送の確保に必要  
地域医療構想調整会議の活用

二次医療圏を基本単位として設置  
構成員: 医療提供者、医療保険者、住民代表、市町村 等

地域医療構想調整会議を活用して協議を行うことができる

管区医師会の役割

**医師偏在の度合いを示す指標の導入**

地域ごとの外来医療機能の偏在・不足等の客観的な把握が可能

- 外来医療機能に関する情報を可視化するため、地域の関係者が提供する**情報の内容**（付加情報の追加、機微に触れる情報の削除等）**について協議**
- 救急医療提供体制の構築、グループ診療の推進、医療設備の共同利用等の、**地域における外来医療機関の機能分化・連携の方針についても協議**

**無床診療所の開業規制を行う場合の課題**

以下のような課題があり、**開業規制については更なる議論が必要**

- ・ **駆け込み開設への懸念**（無床規制を導入した際は、S59～H3までの間に238,916床増床）
- ・ **自由開業制との関係**（現行制度上、医師免許は開業免許と位置付けられており、憲法で保障された営業の自由との関係の整理が必要）
- ・ **国民皆保険との関係**（国民皆保険を採用する我が国においては、保険上の制限も実質上の開業制限）
- ・ **雇入れ規制の必要性**（開業規制を行うのであれば、雇入れ規制が必要であるが、これは事実上困難）
- ・ **新規参入抑制による医療の質低下への懸念**（新規参入がなくなれば、医療の質を改善・向上するインセンティブが低下する懸念）

〔参考〕一般病床数の増加数の年次推移  
（平成12年度以降は療養病床数含む）

#### ◇循環型療養基盤に基づく地域包括ケア実現の要：電子カルテ・ICT多職種連携の確立

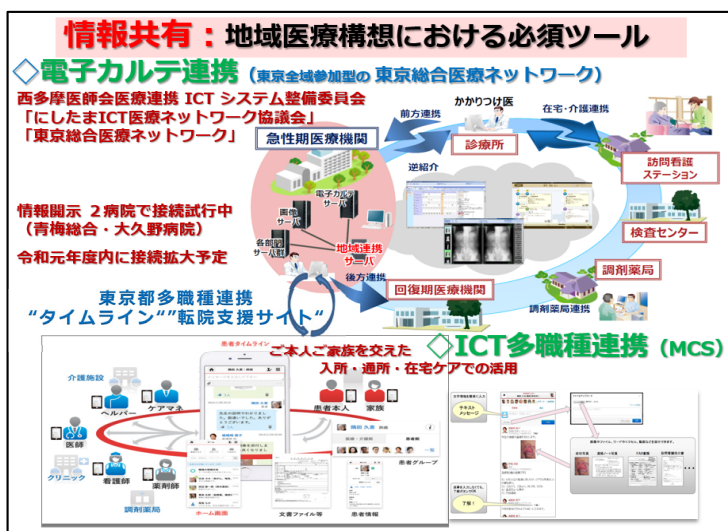
施設・在宅・外来医療の相互連携から、西多摩地域医療の全体像を戦略的に強固にし、西多摩を将来像ある圏域とする必須ツールは、電子カルテや ICT 多職種ネットワークであると考えます。

H28年5月よりの西多摩地域 ICT 多職種ネットワークの始動に続き、一昨年末から「西多摩地域医療連携 ICT システム整備委員会」「にしたま ICT 医療ネットワーク協議会」の下、都・都医・病院協会の多様な電子カルテ間連携「東京総合医療ネットワーク」に参加し圏域内外の連携を期し、協議会規約・利用規程・個人情報保護方針・院内掲示・同意説明書・同意書・利用者マニュアル・情報漏えい保険設定等を整備し、本年当初より接続試行に入ります。その後各病院・診療所・介護施設等への参加勧奨活動を開始する予定です。

また ICT 多職種ネットワークは、本会が西多摩の各市町村から実施委託を受け利用拡大につき、以下の活動予定ですのでご理解ご参加をお願いします。

MCS（完全非公開型 医療介護専用 SNS）のセキュリティや災害時の堅牢性が高く見込まれ、以下の活用拡大を目指します。

- ① 医師会内通常連絡ツールとしての活用促進
- ② 医師会緊急連絡ツールとしての活用促進
- ③ 地域多職種への通常連絡兼緊急連絡ツールとしての活用促進
- ④ 高齢療養者ご家族と入院・入所・通所・訪問サービス提供者との連絡に活用し協働意思決定（Shared decision making）の支援を推進
- ⑤ 各種関連団体・検討会・協議会・研究会・勉強会等の連絡ツールとしての活用促進
- ⑥ 東京都が整備する多職種連携ポータルサイトの“タイムライン”“転院支援サイト”を利用し、病床機能間の転入院時等、病院連携職と施設・在宅医・多職種間連携網として活用推進



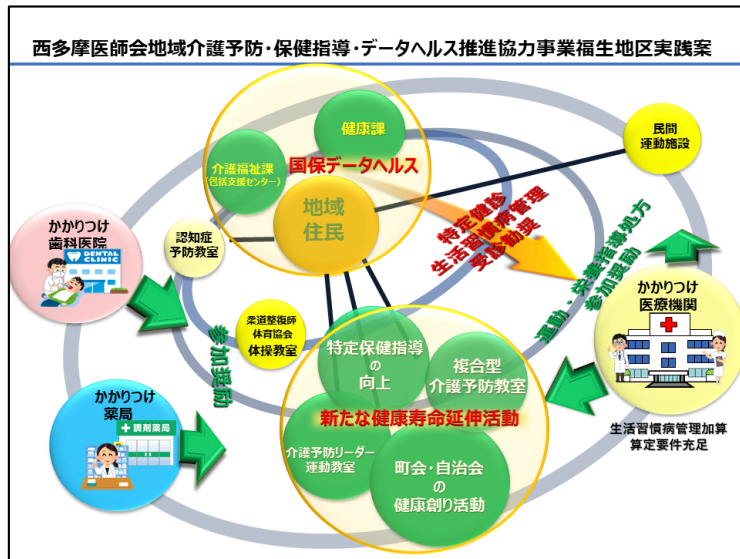
#### ◇世代を超えた生活習慣病発症・重症化・要介護予防からの包括的推進

国施策においては、人生100年時代の実現について、学校教育からの健康リテラシーの醸成、特定健診やレセプトデータ活用による個々の行動変容への働きかけ、ビッグデータ活用による地域課題抽出と改善、健診後の保健指導勧奨などを通じて、生活習慣病の発症・重症化予防事業と高齢者の低栄養・フレイル・認知症予防事業の一体的実施による、世代を超えた健康増進活動を各区市町村に求めています。

西多摩では、財源やマンパワーにおいて都区部との格差は否めませんので、地域自治体としっかりと協働し、かかりつけ医や病院が積極的かつ適正に生活習慣病管理やフレイル予防にかかわられるよう「西多摩医師会地域介護予防・保健指導・データヘルス推進協力事業」を立ち上げました。



各地区自治体と医療機関連携による健診・診療データ・状態像からの各種予防・健康づくりの通いの場へのマッチングと参加勧奨、個別運動処方等の提供等による生活習慣病管理の質の向上、通いの場への近隣医師・看護師等の参画による継続的な運動や行動変容勧奨等を行うべく、福生地区において施行を開始しています。各地区でもお取り組み頂きたいと存じます。



◇西多摩八市町村との連携と協働による地域包括ケア構築の推進

西多摩8市町村を束ねる西多摩広域行政圏協議会と連携した、西多摩二次保健医療圏での地域包括ケア構築事業では、定期的に西多摩医療介護関係者研修会、テーマ別勉強会等が企画実施されています。地域住民事業として、西多摩8市町村の「在宅医療・介護支援ガイドブック」を作成配布しました。7月には所属が異なる多職種がチームとして連携し、その時の容態に最も適した場で、共通の指標に基づく情報を引き継ぎ、可能な限り本人・ご家族の意思に沿った一貫性ある医療ケアを随時・適切に提供するシステムづくりを目指すグループワーク研修「在宅療養を基本とした循環型療養基盤の確立～在宅期療養者の応急対応に関する課題抽出とマネジメント～」を実施、11月にはパネルディスカッション「住みなれたまちで自分らしく生きる」を開催しました。今後も西多摩全域を視野にした広域行政圏協議会との協働活動の充実を期して参ります。



以上、地域の不特定多数の皆様へ資する、だれも置き去りにしない医療・介護・福祉の増進にかかわる様々な公益目的事業を創造、実践するという本会の使命を全うし、かつ、本会の在り方を明確化見える化し、健全な財務基盤に立ち、次世代に引き継ぎ、会員医業の将来像構築にも寄与することを、今後とも目指したいと存じます。

皆様のさらなるご指導ご鞭撻をお願いし、新年のご挨拶と致します。

## 保健所だより

### 1. 西多摩圏感染症発生動向

2019年第40週～第48週(9/30～12/1)の間に診断された感染症について、管内(青梅・福生・羽村・あきる野・瑞穂・日の出・檜原・奥多摩)の医療機関より以下の報告がありました。

#### (1) 全数報告疾患 届出件数

##### 〈二類感染症〉

- ・結核 15件 肺結核5件、粟粒結核2件、尿路結核1件、潜在性結核感染症7件。

年齢は30代1件、40代1件、50代2件、60代2件、70代6件、80代2件、90代1件。推定感染地はいずれも国内。

##### 〈三類感染症〉

- ・腸管出血性大腸菌感染症 1件 患者、血清型・毒素型 O157VT2、年齢は10代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染。

##### 〈四類感染症〉

- ・つつが虫病 1件 年齢は70代、推定感染地は国内

##### 〈五類感染症〉

- ・B型肝炎 1件 患者、年齢は30代、推定感染地は国内、推定感染経路は性的接触。
- ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はB群、年齢は80代、推定感染地は不明、推定感染経路は不明。
- ・侵襲性肺炎球菌感染症 1件 血清型検査未実施、年齢は60代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、肺炎球菌ワクチン接種歴は不明。
- ・梅毒 3件 患者1件(晩期顕症梅毒)、無症候性梅毒2件、年齢は40代1件、70代1件、80代1件、性別は全て男性。推定感染地はいずれも国内、推定感染経路は性的接触1件、不明2件。
- ・百日咳 7件 年齢は10歳未満1件、10代2件、20代1件、40代3件、ワクチン接種：4回2件、3回1件、不明4件

#### (2) 定点報告疾患 届出件数

| 定点種別    | 疾患名            | 第40週  | 第41週  | 第42週   | 第43週   | 第44週   | 第45週  | 第46週   | 第47週   | 第48週   |
|---------|----------------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|--------|--------|--------|
|         |                | 9/30～ | 10/7～ | 10/14～ | 10/21～ | 10/28～ | 11/4～ | 11/11～ | 11/18～ | 11/25～ |
| インフルエンザ | インフルエンザ(外来)    | 6     |       | 1      | 2      | 2      | 1     | 9      | 17     | 58     |
| 小児科     | RSウイルス感染症      | 4     | 6     | 6      |        | 2      |       |        |        |        |
|         | 咽頭結膜熱          |       | 4     |        |        |        | 2     | 2      | 2      | 1      |
|         | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎  | 2     | 5     | 5      | 10     | 12     | 7     | 17     | 5      | 6      |
|         | 感染性胃腸炎         | 18    | 17    | 15     | 21     | 14     | 27    | 22     | 24     | 16     |
|         | 水痘             | 2     | 2     | 4      | 1      | 3      | 3     | 4      | 11     |        |
|         | 手足口病           | 60    | 37    | 21     | 15     | 23     | 20    | 8      | 8      | 9      |
|         | 伝染性紅斑          | 1     |       |        |        |        | 1     |        |        |        |
|         | 突発性発しん         | 4     |       | 3      | 2      | 3      | 4     | 5      |        | 5      |
|         | ヘルパンギーナ        | 7     | 5     | 1      | 1      | 5      | 2     |        |        | 1      |
|         | 流行性耳下腺炎        | 1     |       |        |        | 1      |       |        | 1      |        |
|         | 不明発疹症          |       |       |        |        |        |       |        |        |        |
| 眼科      | 川崎病            |       |       |        |        |        |       |        |        |        |
|         | 急性出血性結膜炎       |       |       |        |        |        |       |        |        |        |
| 基幹病院    | 流行性角結膜炎        |       |       |        |        |        |       |        |        |        |
|         | 細菌性髄膜炎         |       |       |        |        |        |       |        |        |        |
|         | 無菌性髄膜炎         |       |       |        |        |        |       |        |        |        |
|         | マイコプラズマ肺炎      |       |       |        |        |        | 4     | 1      | 2      |        |
|         | クラミジア肺炎        |       |       |        |        |        |       |        |        |        |
|         | 感染性胃腸炎(ロタウイルス) |       |       |        |        |        |       |        |        |        |
|         | インフルエンザ入院      |       |       |        |        |        |       |        |        | 2      |
|         | 合計             | 105   | 76    | 56     | 52     | 65     | 71    | 68     | 70     | 98     |

### 2. 都内で注目されている定点把握対象疾患 48週(11/25～12/1)時点

- ・インフルエンザの定点当たり報告数が増加し、目黒区・荒川区保健所管内で注意報開始基準を超えました。
- ・水痘の定点当たり報告数が増加し、注意報レベルとなりました。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が増加しています。

インフルエンザの流行状況(東京都) <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/flu/flu/>

水痘の流行状況(東京都) <http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/chickenpox/chickenpox/>

# 東京都および西多摩保健所のアレルギー疾患対策について

## 1. アレルギー教室の開催

昨年11月15日に、西多摩保健所では花粉症をテーマにアレルギー教室を開催しました。講師には日本医科大学耳鼻咽喉科学教授で東京都花粉症対策検討委員の大久保公裕先生をお招きして、管内の保育園・幼稚園・小学校・学童保育・児童福祉施設の職員53名が参加されました。

大久保先生からは、スギ花粉症におけるアレルギー免疫療法として皮下注射と舌下免疫療法の適応や、妊婦・小児の治療についても説明がありました。特に、治療を始める前に医師による正確な診断が大切と訴えておられました。参加者はアレルギー疾患を抱える子供とその保護者への対応に苦慮されており、どうすれば花粉症の症状を軽減できるのか、保護者に子供の受診を勧めたほうがよいのか等、熱心に質問されていました。

## 2. 都におけるアレルギー疾患対策

都では、平成10年に「東京都アレルギー疾患対策委員会」を設置し、日常生活の中での予防対策に係る普及啓発やアレルギー疾患の相談等に係る人材育成、区市町村や保育所等の支援等を実施してきました。平成27年に施行されたアレルギー疾患対策基本法を受けて、平成29年に「東京都アレルギー疾患対策推進計画」を策定しました。この計画に基づいて様々な施策が実施されており、そのうち身近な例を3つ挙げます。

### 1) 東京都アレルギー情報navi.\*<sup>1</sup>【図1】

ホームページでアレルギー疾患に関する基礎知識、自己管理や生活環境の改善方法等の情報を患者や家族に提供しています。

### 2) 東京都アレルギー疾患医療拠点病院(4か所)及び専門病院(13か所)\*<sup>2</sup>

専門医療機関を指定し、専門的医療の提供体制を整備しています。

### 3) 社会福祉施設や学校等職員向け研修

緊急時対応力の向上のため、職員向け研修を実施しています。昨年度は管内の保育・学校・学童保育等職員向けに、食物アレルギーに関する講演会を開催し、「アナフィラキシー補助治療剤・アドレナリン自己注射薬(エピペン®)」の取り扱いについて研修を実施しました。

## 3. 花粉症患者実態調査\*<sup>3</sup>【図2】

都内における最新の花粉症推定有病率や予防・治療などの状況を把握するため、10年毎に実施しています。あきる野市、調布市、大田区の一部地域住民から得たアンケート回答と検診結果から、都内スギ花粉症の推定有病率は平成28年度48.8%と推定されています。(平成18年度28.2%、平成8年度19.4%、昭和58年度～昭和62年度10.0%)

## 4. 飛散花粉数調査【図3】【図4】

都内では12か所で、1月上旬から5月中旬までは主にスギ・ヒノキ花粉を測定し、5月下旬から11月下旬は主にイネ科、ブタクサ属、ヨモギ属、カナムグラの花粉を測定しています。

当保健所は、屋上にダラム式花粉捕集機器を設置し、そこに水平に置かれたスライドガラスに付着した花粉を染色した後、顕微鏡により目視でカウントします。シーズン前(5月～11月)は週に2回、シーズン中(1月～5月中旬)は、土日を除く毎日、計測しています。また、秋にはスギの花芽調査を実施して、次シーズンの花粉飛散量を推定しています。

## 5. 花粉情報

環境省花粉測定システム(愛称:はなこさん)では、全国の観測地点で花粉自動測定器により計測された1時間平均の花粉数が自動送信され、ホームページで更新されています。

都内の詳細な観測情報は、前述の東京都アレルギー情報navi.からも確認できます。また、1月下旬頃には飛散開始日\*<sup>4</sup>・花粉の総数・花粉の多い日等の予測が発表されます。

桜の開花情報とは違って、迷惑がられる飛散花粉情報ですが、ご活用いただければ幸いです。

【参考資料・注釈】

\* 1 東京都アレルギー情報 navi.

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/allergy/>

\* 2 東京都アレルギー疾患医療拠点病院及び専門病院

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/allergy/effort/medical.html>

\* 3 東京都花粉症患者実態調査報告書（平成 28 年度）

[http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2017/12/18/documents/14\\_02.pdf](http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2017/12/18/documents/14_02.pdf)

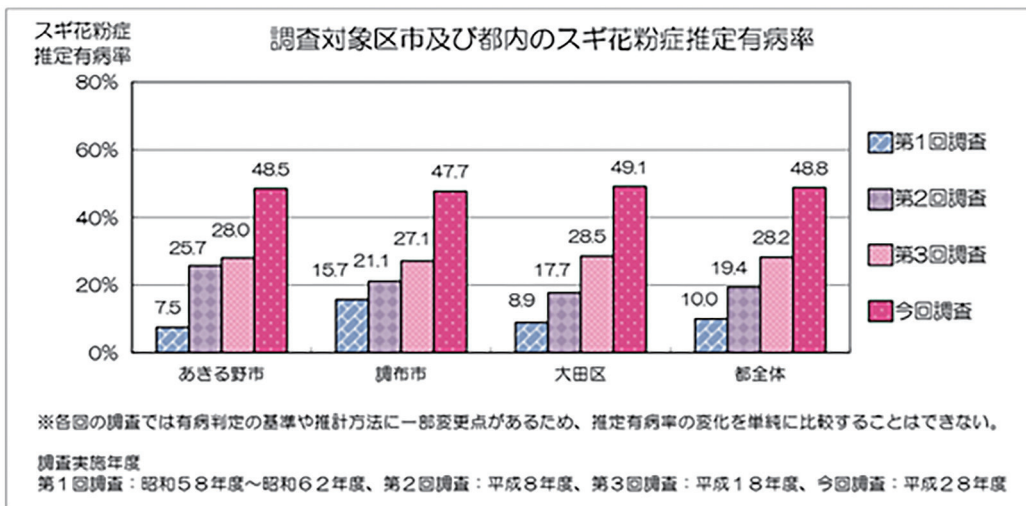
\* 4 飛散開始日：一観測地点で、1月以降に1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を原則として、2日以上連続して観測した場合の最初の日としています。

西多摩保健所生活環境安全課・保健対策課

【図1】 東京都アレルギー情報ナビ



【図2】 調査対象区市および都内のスギ花粉症推定有病率





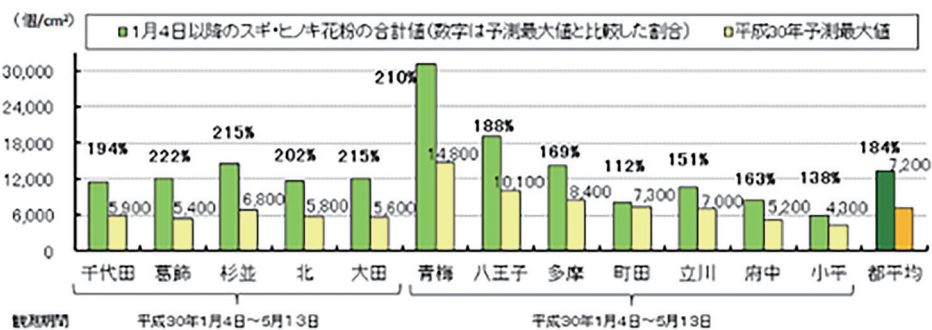
【図3】平成30年飛散花粉数調査



### スギ・ヒノキ合計の花粉の累積値

1月4日以降のスギ・ヒノキ合計の花粉の累積値（単位：個/cm<sup>2</sup>）

| 千代田     | 葛飾      | 杉並      | 北       | 大田      | 青梅      | 八王子     | 多摩      | 町田     | 立川      | 府中     | 小平     |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|--------|--------|
| 11468.5 | 11966.9 | 14631.0 | 11714.6 | 12051.9 | 31095.0 | 18963.2 | 14198.2 | 8135.5 | 10569.8 | 8453.5 | 5933.7 |



【図4】ダーラム式花粉捕集機器



# 専門医に学ぶ 第140回

公立阿伎留医療センター 放射線科 謝 毅宏

まれな原因による腸閉塞の2例

【症例1】 80歳代 男性

【主訴】 腹痛 嘔吐

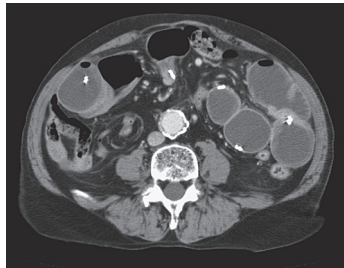
【経過】 癒着性イレウスの診断で入院し、イレウスチューブが留置された。入院3日目、イレウスチューブの減圧不良が認められた。精査目的でCTが撮影された。

入院時の採血データでは、グルコース、AST (GOT) の軽度高値を認めた。CRPは0.22mg/dlと若干上昇していたが、白血球は正常範囲内であった。

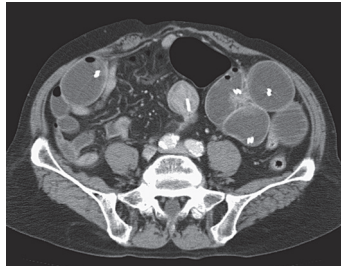
【既往歴】 腹部大動脈瘤に対しグラフト置換術後、肺気腫、高血圧

【画像】

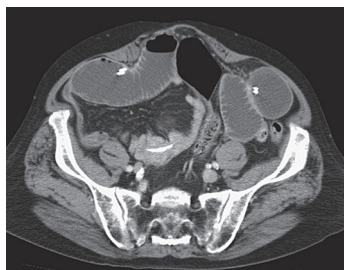
腹部造影CT



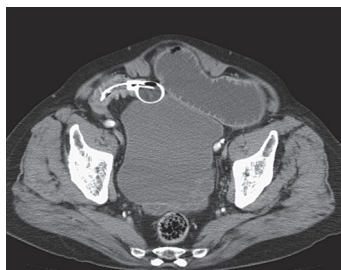
症例 1\_ax1



症例 1\_ax2



症例 1\_ax3



症例 1\_ax4

再構成冠状断像



症例 1\_coro

【画像所見】

イレウスチューブが挿入されているが、小腸の拡張が認められる。

イレウスチューブ先端から少し手前で小腸の拡張が終わる。拡張が終わった部分からイレウスチューブ先端の小腸は短縮し、一部がわずかに重積している。

【経過】

イレウスチューブの位置調整 (30cm 程度引き戻す) が行われ、減圧良好となった。その後は保存的治療で軽快し、入院後17日目に軽快退院となった。

**【診断】**

イレウスチューブが誘因となった腸重積（テレスコーピング現象）

**【症例 2】 60 歳代 男性****【主訴】 冷や汗 腹痛**

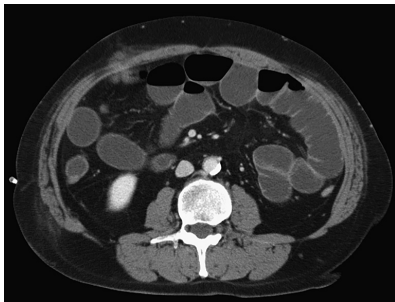
**【経過】** 胃癌に対し、腹腔鏡下幽門側胃切除が施行された。内臓肥満著明で、組織はもろく止血に難渋した。術後 4 日目より食事を開始したとたんに冷や汗と腹痛が出現した。術後の麻痺性イレウスの診断で、禁食および保存的治療が施行された。精査のため、術後 7 日目に CT が施行された。

採血データでは、CRP 4.57mg/dl, WBC 15500/ $\mu$ l と高値を示した。また、AST (GOT), ALT (GPT), ALP 高値を認めた。他には特記データなし。

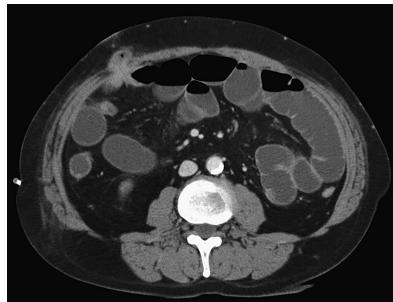
**【既往歴】** 胃癌術後の他、特記事項なし。

**【画像】**

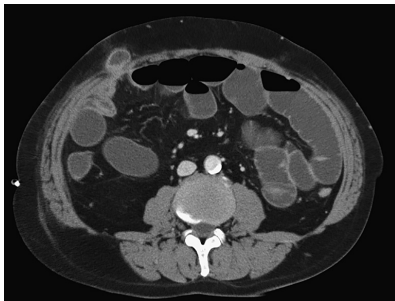
腹部造影 CT



症例 2\_ax1



症例 2\_ax2



症例 2\_ax3



症例 2\_ax4

**【画像所見】**

L3/4 レベルの右腹壁から皮下に小腸の脱出が認められる。口側の小腸の拡張を伴っている。腹壁癒着ヘルニアによる腸閉塞が示唆され、位置的には腹腔鏡（12mm ポート）挿入部位が疑われた。

**【経過】**

局所麻酔下に同部位の真皮縫合を外し皮下脂肪を触診するも明らかな腫瘍は触知せず。同日、手術室でヘルニア根治術が施行された。

その後症状は改善。排便あり。胃管からの排液も著減。術後 9 日目より食事開始。術後 16 日目に軽快退院となった。

**【診断】**

腹腔鏡術後のポートサイトヘルニア

**【解説】**

症例 1 は、イレウスチューブが誘因となった腸重積の症例である。

イレウスチューブは腸閉塞の保存的治療および癒着剥離術後に広く用いられている。まれにイレウスチューブが誘因となり腸重積症を発症することがある。

イレウスチューブに伴う腸重積の報告例を集計・分類した報告では

Type 1；先進部に器質的病変なくテレスコーピング現象によるもの

Type 2；イレウス管の先端が先進部となるもの

A；バルーンが先進部

B；イレウス管の側孔に粘膜が吸引された場合

Type 3；イレウス管の引き抜きによるもの

に分類され、Type 1 が最も多く認められた。

Type 1 では、イレウス管先端部のバルーンによって蠕動運動が刺激されるがイレウスチューブの抵抗により口側腸管が蛇腹状にたぐり寄せられ結果的に腸管が折り重なって腸重積を形成する。イレウスチューブが挿入されている腸管が順行性に腸重積を来す。

提示した症例は Type 1 と考えられる。発症早期であり保存的治療で軽快したが、文献的報告では手術を必要とした症例も多く見られる。

注) テレスコーピング (telescoping)

伸縮する構造・装置・機構のことで、望遠鏡が代表的な道具であることから名づけられた。中空の円柱を利用したものをテレスコピック (telescopic) パイプともいい、望遠鏡や釣竿やアンテナや警棒などがある。

症例 2 は、腹腔鏡術後のポートサイトヘルニアの症例である。

腹腔鏡手術におけるまれな合併症の 1 つとして、ポート孔からの腹壁癒着ヘルニアがあり、ポートサイトヘルニアと呼ばれる。頻度は 1～数%。10mm 径以上のポートの発生例が多いが、5mm 径以下の細径ポートの発生例の報告も散見される。手術後 10 日以内での発生の報告が多い (約 65%) が、手術後数年で発症した報告もある。

原因としては、ポート刺入部筋膜の未閉鎖あるいは不完全な閉鎖、ポート抜去時の圧差による大網や腸管の引き込み、高度肥満、腹壁の脆弱性などが指摘されている。

診断は腹部視聴診所見 (腹部膨隆、圧痛) に加え、腹部 CT 検査、腹部超音波検査で行われる。肥満で腹壁の厚い症例では腹部膨隆などがはっきりしない場合もある。

ヘルニアを起こすポート孔のほとんどは 10mm 以上のポート挿入部であることから、予防のためには 10mm 以上のポート孔は筋膜の閉鎖を極力行うことが必要である。

**【結語】**

まれな原因による腸閉塞の 2 例を提示した。ともに医原性であり、診断が遅れると腸壊死などの合併症を引き起こす恐れがある。合併症として覚えておくと早期診断に役立つと思われる。

**【参考文献】**

関野康ほか イレウス管が誘因となった腸重積症の 1 例 日本消化器外科学会雑誌, 2011;44 (7) :875-881

上原悠也ほか 腹腔鏡下直腸低位前方切除後ポートサイトヘルニアをきたした 1 例 日外科系連会誌, 2008;33 (6) :920-922



令和1年11月19日(火) 19:20～  
公立福生病院 1F 多目的ホール

## 『2型糖尿病の薬物療法における体重管理』

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科  
分子内分泌代謝学分野 教授 山田 哲也

抄録

エネルギー代謝調節 (= 体重調節) は、糖をはじめとする蛋白質、脂質など栄養素の代謝の総和から成り立っている。したがって、エネルギー代謝と糖代謝の個体レベルでの調節機構は密接な関連を有しており、共通の制御機構を介することも少なくない。1994年のレプチンの発見は、血糖・体重調節における臓器連関における役割やその統御中枢としての脳機能の重要性を示す端緒となったと思われる。また、近年の糖尿病治療において重要な役割を担っているインクレチン関連薬は、糖・エネルギー代謝調節における臓器連関をターゲットにした治療戦略と捉えることもできると思われる。回腸のL細胞から分泌されるGLP-1は、インスリン分泌促進、グルカゴン分泌抑制、摂食抑制など、腸管(膵β/α細胞、脳(視床下部)、迷走神経)など多様な臓器連関を担っており、実臨床における血糖あるいは体重コントロールの改善に生かされている。一方、最近、分子生物学的手法を用いた動物実験の飛躍的進歩により、糖・エネルギー代謝調節における神経ネットワークの重要性も明らかになってきた。例えば、肝臓や胃腸管から迷走神経を介して脳に伝達される神経シグナルは、摂食、褐色脂肪組織におけるエネルギー消費、インスリン分泌、末梢臓器のインスリン感受性などの調節に寄与している。

このように、ヒトを初めとする多臓器生物では、体重や血糖値は一つの臓器だけで決まるものではなく、個体全身の臓器の連携によって成り立っており、その臓器連関を統御する為に、脳は、液性シグナルと神経シグナル受容することなどにより全身状態を把握し、適切に対応している。本講演では、基礎的な研究の進展によって明らかとなってきた臓器連関のメカニズムの理解を基に、肥満・2型糖尿病の治療戦略について症例提示を交えて考察してみたい。

西多摩医師会担当で

## 第95回 多摩医学会開催

学術部

本年度の第95回多摩医学会は、西多摩医師会が開催担当医師会となり、本会玉木一弘会長を学会長に、2019年11月9日土曜日、午後2時よりパレスホテル立川で、特集「生活習慣病・フレイル等の発症・重症化予防の取り組み」7演題、一般14演題について開催された。

玉木学会長は開会挨拶で、今秋の多摩川流域での台風雨災について、第93回の特集演題で議論された震災対策はそれなりに進んではいるが、台風等その他の災害想定や被災後の中長期的な要配慮者支援には、さらに多職種での行動体制を整えなければならないと改めて感じたと触れるとともに、「本学会は、長きに渡り、共に諸先輩から受け継いできた、医師のミッションを形づくる、大切な医師会活動であると存じます。すなわち、新たな知見を“研究者”として探究すること、その成果を“技術者”として臨床応用すること、さらにそれを“医療者”として社会へ不

偏的に提供すること、そしてその活動を次世代に承継すること等です。そのことを、皆さんと共に本年もしっかりと継続させて頂きたいと存じます。」と述べた。

特集演題では、玉木会長が西多摩三師会の取り組みから「自治体との協力による体験型フレイル・要介護予防フォーラムの展開」として、健康寿命延伸への国施策と圏域四市三町一村の取り組みに協働した、かかりつけ医療機関や薬局からのフレイル予防啓発活動について、昨年3月に行った福生市との「健康長寿な地域づくりフォーラム」ので試行経験を報告した。

また、本会の西多摩医師会地域介護予防・保健指導・データヘルス推進協力事業の福生地区における実践活動として、石田信彦副会長らが「地域自治体・医療機関連携による予防・健康づくりの一体的実施の試み」として、かかりつけ医療機関における健診・診療データ・状態像からの各種通いの場へのマッチングと参加勧奨、個別アセスメントによる根拠に基づいた具体的運動処方の提供等による生活習慣病管理の質の向上、町内会や介護予防リーダー等の住民主体の通いの場への、近隣医療機関医師・看護師等の参画による継続的な運動や行動変容の促進等、福生市事業下における実践活動について報告した。

一般演題では、西多摩三公立病院からそれぞれ症例発表が行われた。

## 発熱、体動困難で受診し、Crowned dens syndrome と診断した 1 例

公立阿伎留医療センター 内科

○北村寛志・立花秀介・貞苺利彦・岡部龍太  
片山直之・松永洋一・後藤慎一・國吉 孝  
梅津道夫・樫田光夫

症例は 88 歳男性。高血圧症、高尿酸血症、逆流性食道炎で近医通院中。38°C 台の発熱、体動困難にて当院救急外来受診し、精査加療目的に当院入院となった。当初尿路感染症を疑い、抗生剤治療開始するも、発熱は持続し、炎症反応の改善も認めなかった。入院後頸部痛を訴え、診察上頸部前後屈、回旋制限を認めた。これまでも同様の頸部痛や手関節、膝関節痛発作を繰り返しており、偽痛風を疑い、頸椎 CT 施行したところ、歯突起周囲の石灰化を認めた。環軸関節の偽痛風(Crowned dens syndrome)と診断し、NSAIDs のみで経過をみたところ、解熱、頸部痛や炎症反応の改善を認め、経過良好にて退院となった。発熱、体動困難で受診し、Crowned dens syndrome と診断した 1 例を報告する。

## 腸管気腫症に対する治療方針と検討

青梅市立総合病院 外科

○藤井学人・田代 浄・森山禎之・渡邊 光・渡部靖郎  
一瀬友希・川崎浩一郎・古川聡一・山下 俊・工藤昌良  
竹中芳治・山崎一樹・正木幸善

【目的】腸管気腫症は腸管壁の粘膜下層や漿膜下層に綿状や嚢胞状のガスが存在する状態と定義される。保存的治療が可能な症例がある一方で手術が必要で重篤な経過をたどる症例もあり、治

療方針を的確に判断することが重要となる。

**【対象と方法】** 2009年9月から2018年8月までのCT検査で腸管気腫症と診断された31例。

**【結果】** 男性22例、女性9例、平均年齢は72歳(39歳から92歳)だった。精神疾患11例(35%)、便秘症11例(35%)、閉塞性肺疾患8例(26%)に既往があり、糖尿病薬16例(52%)、ステロイド剤8例(26%)で服用歴を認めた。腹腔内遊離ガス7例(23%)、門脈ガス5例(16%)に認めた。手術施行したのは6例(20%)で試験開腹術4例(13%)、腸管切除術2例(6%)であった。腹腔内遊離ガスを認めた7例および門脈ガスを認めた5例を含め腸管壊死や消化管穿孔などの器質的変化を否定しえた25例(81%)は保存的治療で軽快した。

**【結語】** 腸管気腫症は器質的変化を否定できれば保存的治療が可能であった。

## 重症筋無力症にたこつぼ心筋症を併発した1例

公立福生病院

○福島啓太・池上 健・高橋聡介

満尾和寿・吉田英彰

症例は60代男性。数週間前から頸部痛、腰痛、目のみえにくさを自覚し、徐々に四肢の力の入りにくさから外出困難となり、当院整形外科に精査目的で入院した。第2病日のMRIでは主訴を積極的に疑う所見を認めなかったが、同日に突如胸痛およびSpO<sub>2</sub>低下、心電図で広範なST上昇を認めた。緊急CAGで冠動脈病変はないが、左室造影で心尖部中心の壁運動低下を認め、たこつぼ心筋症と診断した。呼吸筋低下によると思われるCO<sub>2</sub>貯留のため、NIPPV導入しHCU管理とした。抗AchR抗体測定し、第10病日に筋電図検査施行。針筋電図は正常、抗AchR抗体陽性と筋電図反復刺激の振幅減衰から重症筋無力症と診断された。第5病日には夜間のみNIPPV装着となり、第11病日に一般病床へ転床したが、確実な精査・治療のため第15病日に神経内科専門病院へ転院した。四肢脱力感で入院され経過中にたこつぼ心筋症を併発し精査の結果、重症筋無力症と診断された1例について報告する。

## 自治体との協力による体験型フレイル・要介護予防フォーラムの展開

- 1) 一般社団法人 西多摩医師会
- 2) 東京医科歯科大学大学院高齢者歯科分野
- 3) 一般社団法人 西多摩歯科医師会
- 4) 一般社団法人 西多摩薬剤師会

○玉木一弘<sup>1)</sup> 水野英彰<sup>1)</sup> 栗原教光<sup>1)</sup>

山口浩平<sup>2)</sup> 加藤裕正<sup>3)</sup> 田中三広<sup>4)</sup>

健康寿命延伸への国施策で、生活習慣病やフレイルの発症・重症化予防事業の一体的実施が地域自治体に求められていることから、西多摩三師会を主体に、かかりつけ医療機関や薬局からの啓発を推進し、圏域四市三町一村の取り組みへ協働する活動を開始した。今回は福生市の後援

で会場提供を受け「健康長寿な地域づくりフォーラム in 福生」として、2019年3月の土曜日午後3時間の日程で以下を実施した。市長等の趣旨説明後、参加者個々の研究倫理同意を得て、測定ボランティア19名（医師・歯科医師・薬剤師・栄養士・理学療法士等）が、参加者77名の握力・5m歩行速度・膝間接伸展力・呼吸筋力・体組成・歯式・咬合力・舌圧・開口咀嚼力等を測定後、個別の測定値票をフィードバックしフレイル度自己評価目安表を配布、フレイル予防セミナーを実施し、栄養、口腔ケア、運動、生活習慣病や認知症の発症予防等の視点から個別相談等を行った。その試行経験を報告する。

## 自治体・医療機関連携による予防・健康づくり事業の一体的運営の試み

一般社団法人 西多摩医師会

○神谷具巳・加藤 みのる

玉木一弘・石田信彦

健康寿命延伸に向けた介護、認知症、フレイルの予防・健康づくり事業の一体推進を目指す取り組みは、地域包括ケアシステムの構築を含めて地域の重要な課題の一つとされる。通いの場の拡大、栄養・口腔ケア・運動・役割支援など総合的なアプローチが必要であり、保険者・自治体・医療機関・事業者・住民が連携して参画する体制作りが欠かせない。今回我々は、地域自治体と医療機関、事業者が改善すべき健康課題を共有し、一体的に行う健康づくりのための仕組みを自治体へ提案し取り組んだので、そのモデルおよび結果について報告する。かかりつけ医療機関との連携による各対象者へのアプローチ、個別アセスメントによる根拠に基づいた具体的な運動処方への提供、介護予防教室における近隣医療機関医師・看護師の参画による継続的な運動および行動変容促進への取り組み、希望医療機関との特定保健指導実施率向上策を提案し活動している。





## 第2回西多摩医療圏災害医療図上訓練開催の報告



H23年に東日本大震災、H28年に熊本大地震、さらに昨年の西日本豪雨災害に続き、今年は2つの大型台風が東日本に上陸し甚大な被害をもたらしました。もはや私たちの西多摩地域にも未曾有の災害がいつ発生するかも知れません。

去る11/10(日)に東京都からの指導のもと立川断層地震を想定した西多摩地域での災害医療図上訓練が、3年ぶりに青梅市立総合病院講堂において開催されました。訓練は三師会災害担当者、各市町村の防災課、健康課職員、各病院災害担当職員など、西多摩地域災害医療連携会議のメンバーが集結し行われました。コーディネーターである、青梅市立総合病院救命救急科の肥留川賢一先生に訓練の概要を、青梅市医師会防災担当理事として参加された菊池孝先生には訓練の詳細な内容と感想などを執筆頂きましたので掲載させて頂きます。当日は日曜日にも拘らず、わざわざ訓練の見学に訪れた会員の先生も数名おられました。医療救護所開設訓練など、今後は一般の先生方にもご参加頂ける形での地域ごとのより実践的な訓練の開催が必要と思われました。

西多摩医師会副会長 江本 浩

### 災害図上訓練を開催して

西多摩医療圏・災害医療コーディネーター（青梅市立総合病院 救急科）  
肥留川 賢一

西多摩医療圏・災害医療図上訓練を11月10日当院講堂で行いました。今回の訓練は都立広尾病院・減災対策支援室の中島康先生が中心となり今までとはちょっと違った切り口で、西多摩医療圏に特有の問題点を考えさせる訓練となりました。今回の訓練の主眼は、「災害時の医療の疑似体験を事前に行い、上手いいかない状況の経験をjする」ということにありました。

震度7の地震が起きました、どうしますか？と問題を提起されれば、災害対策本部の設置・緊急医療救護所の設置運営、など誰でもすぐ頭に出て来ると思いますが、今回はさらに一步踏み込んだ訓練となりました。誰が医療対策本部の立ち上げ指示を出すのか？立ち上げに関わる人員はどの程度が参集できるのか？参集出来る人員の安全確認をどのように行うのか？本庁の災害対策本部と離れた場所にある医療対策本部はどのようにして連絡を取り合うのか？手段はどうするのか？ブロックによっては医師不在の市町村もありその際の医療対策本部は誰の指示でどのように対応するのか？立ち上げに関する連絡体制は決まっているのか？さらにこれら様々な問題に対応するマニュアルはあるのか？など本当に数多くの問題が確認されました。同様に緊急医療救護所や救護所・避難所の設置運営・連絡体制、さらには薬剤供給、搬送方法に関して本場に多くの問題が確認出来ました。今まで楽観的に考えていたわけではありませんが、今回の訓練によってこうすればいいと思っているだけでは必ず失敗するということを本場に体験することが出来ました。

何年にもわたり各市町村そして西多摩医療圏で発災時の対応を検討してきたことにより発災時の流れは医療者だけでなく行政も全員が理解出来ています。今回確認できた様々な問題点を市町村毎で再度抽出・検討して頂き、西多摩医療圏全域の問題と捉え、お互いに助け合うことが出来るようにしていきたいと考えています。西多摩医療圏は都内最小の40万人の医療圏です。これからの皆さんのご協力宜しくお願いいたします。

## 令和元年度西多摩保健医療圏災害医療図上訓練に参加して

きくち耳鼻咽喉科クリニック（青梅市）

菊池 孝

昨年11月、西多摩保健医療圏災害医療図上訓練に参加しました。初めて参加したのですが、なかなか大変でした。その内容を述べる前に、まず図上訓練の概要について述べます。東京都では大地震（マグニチュード7以上）が生じた場合、予想される災害に対応すべく定期的に災害医療図上訓練を行っています。次の1.2.の説明は東京都の説明になります。

### 1. 図上訓練とは

東京都地域災害医療コーディネーターを中心に、医療機関をはじめ、区市町村、保健所、医師会等の関係機関の参加により、災害状況を想定し、例えば、傷病者の搬送と受け入れ、医療機関の調整、医療救護班等の応援医療チームの要請や派遣など、機関同士の連携や対応方法について、二次保健医療圏ごとに確認・検証する訓練。

【運営主体】 地域災害拠点中核病院、基幹災害拠点病院（都の委託を受け、実施）

【実施会場】 地域災害拠点中核病院、基幹災害拠点病院に設置した医療対策拠点等

### 2. 訓練の内容について

#### 1) 訓練の内容

東京都災害対策本部、各医療圏医療対策拠点、区市町村医療救護活動拠点、災害拠点病院・連携病院、医療救護所といった仮想ブースを設置し、下記①～⑤の内容を盛り込んだ訓練計画を作成し、実施

- ① 発災から72時間までの期間を想定
- ② 関係機関との情報連絡・・・連絡手段（様式を使用）・連絡系統の確認
- ③ 患者の搬送調整
- ④ 医療資源の配分調整
- ⑤ 医療対策拠点の運営

#### 2) 訓練での確認事項

- ① 各ブース（東京都災害対策本部、各医療圏医療対策拠点、区市町村医療救護活動拠点、災害拠点病院・連携病院、医療救護所等）の役割、各コーディネーターの統括・調整（助言）、情報連絡系統、通信インフラ（防災行政無線FAX、災害時有線電話、EMIS）等を確認
- ② 災害時に患者受入や医療救護班の要請等を行うための情報連絡様式について、使用・確認  
※ 上記について、災害時医療救護活動ガイドライン等を活用し、検証

### 3. 訓練の実施について

東京都では次のようなブロック（区中央部、区東部、区西部、区南部、区東北部、区西北部、区西南部、北多摩北部、北多摩西部、北多摩南部、南多摩、西多摩）に分けて定期的に訓練を巡回して実施しています。西多摩では前回2016（平成28）年11月26日に青梅市立総合病院で行われました。今回3年ぶりに訓練の機会が巡ってきました。

### 4. 青梅市の取り組み

青梅市においては、青梅市、青梅市医師会、青梅市歯科医師会、青梅市薬剤師会、青梅市接骨師会が協力して、『青梅市災害時医療救護所設置・運営マニュアル（超急性期）』の作成に取り組

んできました。このマニュアルは災害発生超急性期（72時間以内）の医療救護活動を取り決めるもので、継続的に見直しを行っています。

今回の訓練はそのマニュアルに基づき、実際に災害が起こった場合、青梅市としてどう行動するかを確認する訓練でした。今回の図上訓練には、青梅市から事務方5名、医師会から江本会長と私、歯科医師会から2名、薬剤師会から2名の計11名が参加しました。

## 5. 訓練の実際

実施日時：令和元年11月10日（日） 10時00分から18時00分

実施場所：青梅市立総合病院 南棟3階講堂

参加地区：青梅市、羽村市、福生市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、西多摩医療対策拠点、西多摩保健所

参加人数：約160名参加

上記地区ごとに色分けしたビブスを着用し、チームに分かれ、対応しました。

予め、今回の図上訓練の目的は、『仕組みを理解し、事前に上手くいかない体験をする場』、上手になるための訓練ではなく、上手くいかない状況を抽出する訓練であるとの説明がありました。何が足りていないか問題点を認識する訓練と考えて望みました。

訓練は、立川断層を震源とする大地震が起こったと想定して行われました。



想定：立川断層を震源とする大地震が発生

規模：マグニチュード7.4

日時：冬 朝5時 風速8m/秒

### 1) フェーズ0 発災直後（発災～6時間）

今回の図上訓練で戸惑った点は、上記地震が起きたときに、どのような災害が生じるかということから考えないといけなかったことです。予め被害状況が与えられるのではなく、想定される被害をまず自分たちで考える必要がありました。例えば、ある地域で土砂崩れが生じ、それによって何名の被災者が出たかを検討するわけです。崖崩れによる道路の不通とかも想定する必要があり、被害状況を作り出すのにまずかなりの時間を要しました。

### 2) フェーズ1 超急性期（～72時間）

その後、本部から実際の被害状況が伝わってきました。今回の場合、今井1丁目、友田1,5丁目で崖崩れが生じ、その影響で、山根通り、吉野街道が通行不可になったという想定でした。私たちは、今までこの超急性期における医療救護所を設置するためのマニュアル作りを行ってきたのですが、今回の訓練を行ってみると、どの地域に避難所や救護所を設置するのか、そこまで人員をどうやって派遣するのか等で混乱し、他の地域や青梅市の拠点病院に情報を伝達することが全くできていませんでした。反省点が沢山出ました。

### 3) フェーズ2 急性期（～1週間程度）

昼休みを挟んで午後からは発災4日目からの訓練と状況を変えて行われました。この頃になると、東京都以外からの応援が到着し、避難所の状況も刻々と変化してきます。避難所生活が長

期化すると、色々問題点がでてきます。衣食住、疾病予防、安全対策等、避難所の状況も把握する必要があります。そういった点は今回の訓練を行ってみるまで気付いていませんでした。避難者の状況を分析する必要があり、適切に人員を派遣する必要性を認識しました。

## 6. まとめ

- 1) 今回の図上訓練に参加した青梅市の感想は、
  - ・ためになったけど、きつかった
  - ・様々な課題が見つかった
- 2) フェーズ0（発災～6時間）の課題
  - ・実際の災害時は参集が難しいと考える
  - ・迅速な情報収集が必要である
- 3) フェーズ1（6～72時間）の課題
  - ・情報の集約、整理および発信がうまくいかなかった
  - ・正確かつ迅速な情報共有および情報伝達が必要であるが困難であった
  - ・指揮系統の周知ができていなかったので、災害医療コーディネーターの役割が重要であると認識した（青梅市では災害医療コーディネーター代理）
  - ・多数の傷病者に対し、医療救護所で十分な対応ができるか疑問である
- 4) フェーズ2（72時間以降）の課題
  - ・要配慮者（高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者）に対する二次避難所開設のタイミングは速やかに行うべきであると認識した
  - ・32カ所の避難所に対する保険衛生管理等は保健師等の巡回だけでは不十分であると思われるので、外部への支援要請を早い段階で行う必要があると認識した
- 5) 今後の対策
  - ・医療救護所運営設置マニュアルの策定
  - ・各関係機関への医療救護活動内容を周知、徹底する

上記のまとめは、当日会場で発表したまとめになります。訓練に参加した率直な感想は、実際に災害が起こった場合の準備は全く足りていないでした。今回、見学も可能だったので、青梅市医師会員宛にFaxでお知らせしましたが、応募はありませんでした。当日、土田先生に一部見て頂きましたが、現在のままでは災害時に動けるスタッフの確保が心許ない状況です。今後は、災害時の対応を草の根的に広げて、各自が実際の現場で行動できるようにならないと、災害時ただ呆然としているだけになると思いました。





西多摩医師会館に隣接し新庁舎完成

# 西多摩保健所移転開所式開催

西多摩保健所は、1997年に青梅と福生保健所の統合、2004年の秋川保健所との統合を経て現在に至ったが、旧庁舎の老朽化により、西多摩医師会館に隣接し建設が進められていた。ユニバーサルデザインの鉄筋コンクリート3階建てで、旧庁舎の2倍近い広さとなり、災害・感染症等非常時設備を含め機能性がより強化された。



西多摩保健所新庁舎開所式は、2019年（令和元年）11月6日（水）午後1時から、東京都西多摩保健所新庁舎2階講堂で行われた。開所式では、内藤 淳東京都福祉保健局長、浜中啓一青梅市長、斉藤やすひろ都議会厚生委員長に引き続き、本会玉木会長が祝辞を述べた。

来賓として西多摩8市町長、都議会議員10名、西多摩歯科医師会・薬剤師会・食品衛生協会・にしたま環境衛生協会・4公立病院長、3警察生活安全課長3消防署長、管内自治会長等の他、本会役員、会員等多数が参列した。



玉木会長は挨拶で、今秋の風雨災害における西多摩への支援に対する謝辞、西多摩の地勢や高い災害リスク、高齢化と生産年齢人口減少、街機能の縮小、家族介護力低下、人材確保困難等の地域特性への理解を求め、福祉・保健・医療・介護の総合的確保が、地域の文化、コミュニティ、生活インフラ、生業を支える街づくりと、一体に成されなくてはならないことが実感される地域柄であり、この地で生活安全と福祉保健行政に求められる多様な使命を共に果たすために、官・民挙げての協働の拠点として、西多摩保健所機能に参集することを、現場を担うご列席の皆様とともに確認したいと述べた。

また、保健所が戦後の混乱後の、結核をはじめとする感染症、母子保健等の砦として住民を守り、国民皆保険制度の息吹きを支えたことを振り返り、これからも地域住民自らが、健康寿命延伸から住み慣れた場での人生100年時代を達成するために「東京都地域保健医療推進プラン」の下、保健所を基点とした地域包括ケアシステムの実現について、医師会も役割を果たしていきたいと決意を述べた。

## 西多摩医師会 写真・絵画展

西多摩医師会 写真・絵画展が9月10日～14日まで、羽村市生涯学習センターゆとろぎ展示室で開催されました。今回は昨年1月に逝去された田村啓彦先生の遺作も出展され、改めて先生の質の高い写真に触れる事が出来ました。今年は3月に桜をテーマに撮影会を開く予定ですので皆さん是非ご参加下さい。

部長 真鍋 勉 (TEL042-554-6511)



カトレア 森本 晋



櫻花爛漫 (天照山 瀧珠院) 松原 貞一



カトレア 森本 晋



蓮と三重塔 (横浜 三溪園) 真鍋 勉

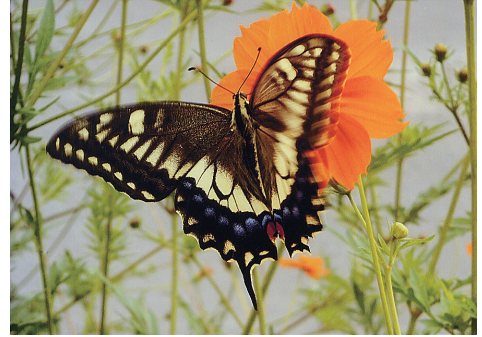


ブルゴーニュの猫 真鍋 勉





ポピー花畑 坂本 保己



アゲハチョウ 坂本 保己



ばら 稲垣 壯太郎



マルタの騎士 渡邊 哲哉



マルタの騎馬兵 渡邊 哲哉

夏に訪れた鎌倉報国寺です。境内にあった池にとってもきれいな水紋が広がっておりました。涼しげで印象的でした。



ばら 稲垣 壯太郎



水紋（鎌倉 報国寺） 古川 朋靖



# 令和元年 西多摩医師会 忘年・クリスマス会



令和元年12月4日(水)午後7時30分より、昭和の森フォレストイン昭和館で毎年恒例の西多摩医師会互助会主催の忘年クリスマス会が開催されました。

正会員34名、準会員27名、家族・職員の方127名、お子さん20名、総数208名と例年になく多くの方々に参加していただきました。

最初に玉木一弘会長より開会の挨拶があり、元会長で現東京都医師会代議員会議長の真鍋勉先生に乾杯の御発声を頂戴し、パーティーの開幕となりました。

昭和館の趣向を凝らしたおいしい数々のメニューに舌鼓を打ちながら、にぎやかな歓談の時間を過ごした後、8時10分よりイベント第一部の「マニファクチャーボーイズ」というバンドとゲスト歌手のアリスさんによる演奏と歌唱が始まりました。最後のクリスマスソングが終わったところでアリスさんから子供達へクリスマスプレゼントが一人ずつ手渡されました。その後、第二部の演奏福引会(演奏とともに商品の抽選会)がマニファクチャーボーイズと玉木会長、医師会バンド合同の演奏でスタートしました。玉木会長進行のもと、スライドを用いながら10等賞から順に計73の方に景品があたりました。3等賞のパナソニック スモーク&ロースターけむらん亭は、あきる野市なかのやUクリニックの仲野谷祐嗣先生に、2等賞の任天堂 Nintendo Switchは青梅市新町クリニックの神應知道先生に、そして1等賞のダイソン「空気清浄機能付ファンヒーター」は福生市目白第二病院の安部学先生に当たりました。

演奏福引会の盛り上がり落ち着いたところで、医師会監事の横田卓史先生に中締めをお願いし、副会長の江本浩先生より閉会挨拶を頂き、令和元年忘年クリスマス会はお開きとなりました。年々参加していただける方が多くなり、大変ありがたいと思うとともに、会場が手狭に感じられ来年よりは大きな会場を用意したいと思います。

尚、今年も本会の準備、運営、進行に際しては医師会事務局スタッフに多大な御協力を頂きました。心より感謝致します。

文責 総務担当 佐藤 正和





## 広 報 だ よ り



### 「決算！忠臣蔵」

進藤医院 院長 進藤 幸雄

皆様、年末年始は映画など観られたでしょうか。年末になると、繰り返し映画やドラマにされている忠臣蔵ですが、今季上映されているのは、ややコメディタッチの「決算！忠臣蔵」です。一般的に「忠臣蔵」として知られる赤穂事件は元禄15年（1702年）に播州赤穂藩浅野家の旧臣四十七人が、主君浅野内匠頭の仇討として、江戸市中本所吉良上野介屋敷に討ち入り、上野介の首級を取ったという事件を題材としています。日本人であればほとんどの人が知っていると思いますが、いかにも日本的で、誰でも共感してしまう、日本人の精神構造の中心にあるのではないかと思います。

さて、この事件はいつから広く知られるようになったのでしょうか。そもそもは、元禄14年3月14日、江戸城殿中松之大廊下での刃傷事件に始まりますが、浅野内匠頭は即日切腹、赤穂藩は取り潰し、一方吉良上野介には何の沙汰もなし、というのは当時の喧嘩両成敗法に照らし合わせてかなり理不尽な判断だったようです。その結果、旧赤穂藩士がそのままにしておくはずがない、いつか討ち入りがあるのではないかと、江戸市中では武士や庶民に関わらず広く噂されていたようです。そして、元禄15年12月14日実際に討ち入りが行われると、瞬間に話は広まり、僅か12日後には江戸市中中村座で「曙曾我夜討」として芝居が上演されました。しかしながら、これは即座に幕府から上演禁止を命じられ、現在よく知られている「忠臣蔵」の名前が出てくるのはその四十六年後、寛延元年（1748年）に「仮名手本忠臣蔵」として歌舞伎で上演されるようになってからです。

因みに、歌舞伎は歴史上の有名人がよく登場しますが、歴史物語を忠実に伝えているものはまずありません。江戸時代は実在の武家社会を芝居にすることが禁じられていたのです。そのため、仮名手本忠臣蔵では、時代背景は室町時代、吉良上野介は高師直（こうのもろのう）、大石内蔵助は大星由良之助（おおぼしゆらのすけ）という名前で登場します。室町時代という設定ですが、誰もが赤穂浪士の討ち入り事件と知った上で舞台を楽しんでいたのです。

さて、映画の話に戻ります。映画は、浅野内匠頭の刃傷事件の後、赤穂藩取り潰しの沙汰が下ってからの話です。赤穂藩は籠城か、開城かの選択に悩みますが、御家再興も立派な戦であるとの考えから開城を決定します。城内の武具、備品等全て売り払い、藩士に割賦金（退職金）を支払い、最期に残ったお金が約700両（約900万円）。このお金の使い道を任されたのが筆頭家老の大石内蔵助です。お家再興のために動き出しますが、血気盛んな旧藩士は仇討ちの暴発寸前、それを抑えつつ奔走します。一方、幕府からは浅野家再興の動きはなく、吉良にも何の処分も下されないまま。遂に吉良は隠居、つまり今後処分はないことが決定されてしまいました。吉良の処分がなければ御家再興も意味がないと考えていた大石はここから討ち入りの方向に大きく舵を切ります。今まで抑えに抑えてきた急進派の旧藩士達と本格的に討ち入りについての計画を始めます。しかしながら、討ち入りにはお金がかかります。神文誓詞を書いて行動を共にすると誓った旧藩士は100人以上。全員で決行するには資金が全く足りませんでした。上方・江戸の旅費だけでも片道金三両（約36万円）、浪士達の仮住まいの屋敷購入費75両（900万円）、討ち入り用の武具、備品、討ち入りまでの全員分の生活費。全員で討ち入るのは到底無理でした。半分以上はリストラとなり、決意の固い精鋭で臨むこととなります。これらの詳細な資金繰りは山本博文著、「忠臣蔵の決算書」に詳細に記載されていますが、もとは大石内蔵助の書き残した「預置候金銀請払帳」（あずかりおきそうろ

うきんぎんうけはいらいちょう)が元になっています。内蔵助は城処分後の残金700両の使い道を詳細に書き残していたのです。そして、討ち入り当日までにほぼ使い果たし、討ち入り前夜は門出の祝儀として杯を交わし、茶屋でそば切り等を注文しゆっくりと過ごしたと言われていました。

内蔵助はこの「預置候金銀請払帳」を討ち入り前日に瑤泉院(浅野内匠頭の正室)に渡しています。そこには700両の用途が詳細に記されており、遊郭で派手に遊んでいたという話もありますが、個人的に用いたお金は一切なかったといえます。しかしながら、用途明細の総額は600両余り。残金100両はというと、二重底に現金で包まれていたといえます。この100両は、討ち入り後に自分たちに処分が下されたのち、その親類まで処分が下されることを予想したものでした。つまり、討ち入り後、浪士の親類まで処分が下された場合に、その助命嘆願に用いてもらいたいという内意が含まれていました。そしてその意図を記載しなかったのは、瑤泉院に類が及ばないようにという配慮でした。

赤穂浪士の切腹後、実際に浪士の遺児たちは大島に島流しになりましたが、瑤泉院の嘆願もあり早期に恩赦されています。その後、浅野内匠頭の弟浅野大学長広は500石の旗本となり、小さいながらも御家再興も叶いました。諸大名は赤穂浪士の義拳を武士の鏡と褒めたたえ、競って義士の遺児を受け入れたといえます。内蔵助の三男大三郎も1500石の知行で広島浅野本家に召し抱えられました。また、討ち入り後、吉良家の家督を継いでいた吉良左兵衛義周は親の恥辱は子として逃れたいとして、諏訪安芸守忠虎にお預けとなりました。幕府は後になって、刃傷事件の判断を誤ったことを認めたのです。

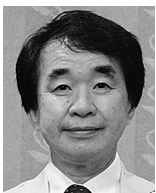
昼行燈、でくのぼうと揶揄されていた大石内蔵助ですが、いろいろと調べてみますと、非常に能力の高い人物であったことがわかります。限られた資金で御家再興を考え、遂に無理と分かった後は、暴発寸前であった浪士達を見事に纏め、立派に主君の仇討を行い、尚且つ自分たちのいなくなった後の対策も立てていました。武士の忠義、統率能力、見事な会計管理という点でも、傑出した人物であったと言えます。最後に、内蔵助の辞世の句をご紹介します。「あらし思ひは晴るる 身は捨つる 浮世の月にかかる雲なし」

現代まで語り継がれる元禄時代の英雄、誠の忠臣大石内蔵助は、今でも主君浅野内匠頭、正妻瑤泉院と同じ高輪泉岳寺で忠誠心を示しています。

## 連載企画

# ヒゲのパーカー

学術担当 栗原 教光



1985年(昭和60年)の夏、女房のかねてからの夢であったエジプト旅行に出かけた。成田からエジプト航空にのりこんだ、マニラ、バンコクで途中給油して燃料満タンで夜の空に飛び立った。翼の上に乗っていたのだが、夜なのに機外が何やらピカピカしている、何だろうと窓から翼の後方を見るとエンジンからポッポーと青白い火を噴いている。隣の女房にも見てもらおうと顔が一瞬に青ざめた。しばらくするとスチュワーデスとパーカーがドタドタと来て、窓の外を見てあわてて引き返していった。最後に機長がやって来て暗い顔をして戻って行った。その後シートベルト着用と当機は海上に燃料を投棄しバンコクに引き返すとのアナウンスが流れた。機内はざわめいた。この夏、御巢鷹山に日航機が落ちたばかりであった、機内を見渡すと遺書を書き始めている人もいた、となりの女房は目をつむり八百万神に祈りをあげている。エンジンは双発のため出火したエンジンを止め片肺飛行で燃料をタイ湾に海上投棄したが燃料が満タンのためそうとうな時間がかかった、自分はただのビールをたらふく飲んだおかげで膀胱がパンパンではじけそうである。トイレを我慢していたのだがもう

ダメというところまでできてしまった。シートベルトを外しトイレに走ったが途中でヒゲのパーサーに取り押さえられシートに押し戻された。非常事態である女房にビニール袋を出してもらいブランケットの中で用を済ませた。2,3時間程飛んでいたのであろうか、窓から外を見ると消防車と救急車に囲まれた真っ赤な滑走路が見えてきた、あとは南無三である。

皆、目をつむって前傾姿勢である、ガッガーと片肺のまま着陸しどうにか機体が止まった瞬間、誰ともなく大きな拍手がわき上がり隣り同士握手を交わしている。

女房は隣の婦人に「あなたが一生懸命お祈りしてくれたおかげよ」と感謝されていた。蒸し暑いバンコクに一泊しどうにかエジプトへ降り立った。もうだいぶ古い話なので、エジプトの事はあまり覚えていないがカイロ空港に到着した時の油の匂い、真っ黒い衣装に身を包んだ大勢の黒ひげの男たち、ナイル川の雄大さ、サンドベージュの砂、40度を超す灼熱の暑さクフ王のピラミッドからケンタッキー・フライドチキンのマークが見えてがっかりしたこと、女房がハトシェブスト大神殿で熱射病になり添乗員のおじさんに頭から水をかけられたこと、パピルスを生懸命値切って買ったものにせものだったこと、電車の中で鳩の丸焼きを食べたら気持ち悪くなったことくらいしか記憶に残っていない。

帰りの便、タラップから飛行機に乗り込もうと歩いていたら、遠くで行きの飛行機で世話になったあのヒゲのパーサーがこちらを見て笑っている、おまけに飛行機を見たら、機体にエンジンのこげ跡が付いている、それを見て皆ぞ〜っとなった。ヒゲのパーサーに同じ機体か?と尋ねたら、「エジプト航空のパイロットは皆、軍人上がりだから片肺飛行など問題ない、ノープロブレム」だと笑っていた。成田に無事に着いた時大きな大きな拍手が沸き上がった。

これ以来我が家の旅行は新幹線や寝台列車(北斗星やさくら)になった。日本の平地が一番である。

## 第18回西多摩医師会臨床報告会のご案内及び演題募集について

時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

第18回西多摩医師会臨床報告会を下記の要領で開催致します。つきましては、日常診療でお忙しいとは思いますが、奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

日 時：令和2年2月20日(木) 午後7時30分から

開催場所：公立福生病院 多目的ホール

### 演 題 募 集

西多摩医師会会員の皆様の臨床での貴重な経験を発表してください。

演題名および抄録を西多摩医師会へFAXしてください。

発 表 者：西多摩医師会会員に限ります。

コメディカルのご発表は会員との共同発表になります。

発表希望者が多数の場合、次回発表とさせていただきます。

発表内容：症例報告、臨床研究、医院の運営方法、その他会員が聞いてためになることなら何でも構いません。

発表時間：1演題10分でご発表いただき討論を含めて15分の予定です。

応募要領：発表内容を400字程度にまとめてFAX又はメールをお願いします。

発表者の抄録は、医師会会報に掲載します。

尚、スライド・パワーポイント等使用を明記して下さい。

募集期間：令和2年1月6日(月)～令和2年1月31日(金)

(西多摩医師会 FAX 0428-24-1615・0428-23-2160)

E-MAIL info@nishitama-med.or.jp

## ◇学術講演会予定

令和元.12.19

| 開催日         | 開始～終了<br>時間         | 会場   | 単<br>位<br>数 | カリキュラム<br>コード | 集会名称・演題   | 講師（役職・氏名）  |
|-------------|---------------------|--|-------------|---------------|---|--|
| 1.16<br>(木) | 19:30<br>～<br>20:55 | フォレスト<br>昭和館                                       | 1.0         | 11<br>78      | 学術講演会<br>【特別講演 1】<br>「最新の糖尿病治療の話題」<br>【特別講演 2】<br>「心房細動の対応とDOACの<br>注意点について」                | 公立福生病院 内科<br>高橋 英理 先生<br>東京医科大学病院 循環器内科<br>不整脈センター センター長<br>里見 和浩 先生   |
| 1.17<br>(金) | 19:30<br>～<br>21:00 | 羽村市<br>生涯学習<br>センター<br>ゆとろぎ                        | 1.5         | 35<br>29      | 学術講演会<br>【演題 1】<br>高齢者てんかんについて<br>【演題 2】<br>「認知症とその合併症のマネジメン<br>ト」                          | 青梅市立総合病院 精神科部長<br>岡崎 光俊 先生<br>社会医療法人財団 親和会<br>八千代病院 神経科部長<br>愛知県認知症疾患医療センター<br>センター長 川畑 信也 先生                      |
| 1.29<br>(水) | 19:00<br>～<br>21:00 | 青梅市立<br>総合病院<br>新棟 3 階<br>セミナー室<br>東棟 1 階<br>第3会議室 |             |               | 学術講演会<br>【特別講演 I】<br>「心臓リハビリテーションについて<br>(仮)」<br>【特別講演 II】<br>「急性心不全の時間軸を考慮した<br>うっ血治療 (仮)」 | 東海大医学部附属八王子病院<br>循環器内科 助教 濱 知明 先生<br>循環器内科 助教 牛島 明子 先生<br>順天堂大学医学部附属順天堂<br>病院循環器内科 心血管睡眠呼<br>吸医学講座<br>准教授 末永 祐哉 先生 |
| 2.12<br>(水) | 19:30<br>～          | 西多摩<br>医師会館  |             |               | 第 50 回青梅市中心電図勉強会<br>【特別講演】<br>「未定」  | 東京医科歯科大学<br>医学部循環器内科<br>教授 笹野 哲郎 先生  |
| 2.20<br>(木) | 19:30<br>～          | 公立<br>福生病院   |             |               | 臨床報告会<br>演題募集中  |  |
| 2.26<br>(水) | 19:30<br>～          | 青梅市立<br>総合病院                                       |             |               | 青梅市立総合病院地域医療連携懇話会<br>「未定」   | 青梅市立総合病院<br>耳鼻咽喉科 頭頸部外科<br>副部長 徳丸 貴夫 先生  |
| 2.27<br>(木) | 19:30<br>～<br>20:45 | 公立<br>福生病院   | 1           | 15<br>65      | 公立福生病院病診連携講演会<br>講演<br>(1)外科<br>「拡大内視鏡を用いた胃がん診断から<br>治療まで」<br>(2)泌尿器科<br>「排尿障害の治療について」      | 公立福生病院 内科<br>医長 新井 健介 先生<br>公立福生病院 泌尿器科<br>医長 小幡 淳 先生  |
| 3.3<br>(火)  | 19:30<br>～<br>21:00 | 公立<br>阿伎留<br>医療センタ                                 |             |               | 第 35 回西多摩消化器疾患カンファ<br>レンス<br>【症例提示】 2～3 症例を予定<br>【特別講演】「未定」                                 | 辻仲病院 柏の葉 消化器内科<br>部長<br>IBD センター長 竹内 健 先生  |



**理事会報告**

★ Information

**10月定例理事会****令和1年10月29日(火)****西多摩医師会館**

(出席者：玉木・江本・樫田・栗原・佐藤・進藤(幸)・田中・土田・古川・宮城・横田・中野)

**【1】報告事項****(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告**

資料により、10/19に開催された標記協議会の伝達事項等について説明報告された

**(2) 各部報告**

学術部：10/19に開催した「市民健康講座」の状況等について

**(3) 地区会報告(各地区理事)：**

青梅市 10/10 青梅地区災害ブロック会議開催

福生市 10/15 定例会開催

10/27「福生市健康まつり」に参加

羽村市

あきる野市

瑞穂町

日の出町

**(4) その他報告：**

○ 都医第2回地域包括ケア委員会(10/25 進藤晃委員)

○ 都医第2回病院委員会(10/26 進藤晃委員)

委員より提出された資料により上記委員会の内容等について確認

**【2】報告承認事項****(1) 入退会会員、会員異動について**

— 承認 —

資料により、正会員1名・準会員3名の入会申請が紹介・報告され承認された。また、準会員1名の退会及び異動届1件が報告された

**【3】協議事項****(1) 令和元年度西多摩保健所難病対策協議会の委員の推薦について(依頼)**

資料により標記依頼事項が説明され、依頼先の要望もあり進藤幸雄先生を推薦することが提案され可決承認された

— 可決承認 —

**(2) 地域医療構想調整会議運営方針に対する対応について**

資料により、外来医療に係る計画の方向性等について説明、今後の地域医療構想調整会議において「外来医療に係る提供体制の確保に関するガイドライン」に対し、二次医療圏として不足する機能等に係る意見聴取が行われた場合の意見・対応をどうするかについて意見交換された

— 可決承認 —

**【4】その他**

特になし

**11月定例理事会**

令和1年11月12日(火)

西多摩医師会館

(出席者：玉木・石田・江本・樫田・栗原・佐藤・進藤(晃)・進藤(幸)・田中・土田・古川・宮城・横田・中野)

**【1】報告事項****(1) 各部報告**

学術部：11/9日に開催された「多摩医学会」の状況等について

経理部：2019年度中間期(9月)の収支状況等について資料により説明・報告

地域医療部(災害対策担当)：11/10に実施された「災害医療図上訓練」の状況・課題等について

**(2) 地区会報告(各地区理事)：**

青梅市 11/1に懇親会開催

福生市

羽村市

あきる野市 11/15に理事会・11/18に定例会を予定

瑞穂町

日の出町 先般の台風の影響で町内道路が通行不能となり一時孤立した地区の住民に対し、行政からの要望により予防接種等を実施

**(3) その他報告**

特になし

**【2】報告承認事項****(1) 入退会会員、会員異動について**

— 承認 —

資料により、準会員3名の入会申請が紹介・報告され承認された。また、準会員3名の退会、異動届2件(法人化に伴う)が報告された

**【3】協議事項****(1) 「今期内に重点的に取り組みたい医師会運営・事業の方向性」について**

資料により、今期内に取り組みたい事項が提案・説明・紹介され、各項目について担当部署等による検討・推進が指示・依頼された

**【4】その他**

特になし

**11月定例理事会**

令和1年11月26日(火)

西多摩医師会館

(出席者：玉木・江本・檉田・栗原・佐藤・進藤(幸)・田中・土田・古川・宮城・横田・中野)

**【1】報告事項****(1) 都医地区医師会長連絡協議会報告**

資料により、11/15に開催された標記協議会の伝達事項等について説明報告された

**(2) 各部報告**

地域医療部：○11/13に開催された「地域医療構想調整会議在宅療養ワーキンググループ」の状況等について

○11/18に開催された「脳卒中医療連携症例検討会」の状況等について

**(3) 地区会報告(各地区理事)：**

青梅市

福生市

羽村市 11/29 羽村市三師会総会予定、12/6 忘年会予定

あきる野市 11/15 理事会開催

11/18 日例会開催

瑞穂町

日の出町

**(4) その他報告：**

○ 都医第3回病院委員会(11/22 進藤晃委員)

委員より提出された資料により標記委員会の内容等について確認

**【2】報告承認事項****(1) 入退会会員、会員異動について**

— 承認 —

資料により準会員1名の入会申請が紹介・報告され承認された

**(2) 令和2年度学校医等各種報酬及び予防接種委託料について(要望)**

資料により、標記に係る行政の要望事項等につき説明、要望3項目についての今後の交渉方針として

① 学校医等の各種報酬については、人事院勧告を反映させることで交渉

② 予防接種委託料の1点単価については、今年度(10.6円)と同様で交渉

③ 予防接種委託料の消費税の取扱いについては、内税としての金額ではなく現状のままとすることで交渉

以上が示され承認された

— 承認 —

**【3】協議事項****(1) 「今期内に重点的に取り組みたい医師会運営・事業の方向性」(その2)**

資料により、医師会業務の標準化と文書の客観化に関して① 医師会業務プロセスの標準

化 ② 医師会文書の階層化とクラウド化 ③ 業務・決済等 ICT 化・ペーパーレス化 ④ 都  
医文書管理システム活用推進について取り組む方向性やねらい等が説明された

#### 【4】その他

特になし

12月定例理事会

令和1年12月10日(火)

西多摩医師会館

(出席者：玉木・石田・江本・樫田・栗原・佐藤・進藤(晃)・進藤(幸)・田中・土田・古川・宮城・  
横田・中野)

#### 【1】報告事項

##### (1) 各部報告

総務部：11/30に開催された「多摩懇」の状況等について

総務部(会員福利互助担当)：12/4に開催された「クリスマス会」の状況等について

公衆衛生部：資料により、令和2年度国民健康保険特定健康診査に係る基本項目の基準  
単価を8,730円とする行政からの通知について

##### (2) 地区会報告(各地区理事)：

青梅市

福生市 12/6 忘年会・休日診療所研修会を実施

羽村市 11/29 羽村市三師会総会・忘年会開催

あきる野市

瑞穂町

日の出町

##### (3) その他報告

○令和元年度第3回東京 JMAT 研修会の開催について  
標記に係る都医からの通知内容紹介及び参加の奨励

○ペーパーレス化のさらなる推進について  
標記に係る都医からの通知内容紹介

#### 【2】報告承認事項

##### (1) 入退会会員、会員異動について

— 承認 —

資料により、準会員1名の入会申請が紹介・報告され承認されたまた、異動届1件が報  
告された

##### (2) 令和2年度福生市立小中学校医(内科・耳鼻科・眼科)の選任について(依頼)

標記依頼につき、福生地区より各学校とも案(資料)の通りの先生を推薦することが提案  
され可決承認された

— 可決承認 —



**(3) 令和2年度羽村市立学校学校医の推薦について（依頼）**

標記依頼につき、羽村地区より各学校とも元年度と同様（資料）の先生を推薦することが提案され可決承認された

— 可決承認 —

**【3】協議事項****(1) 新入会員との懇親会について**

資料により標記懇親会の開催等について協議。開催日を次年度5/22・5/29で調整し実施すること及び対象者全員に案内をすることが提案され可決承認された

— 可決承認 —

**(2) 新年賀詞交歓会会員出席者増員について**

令和2年の標記交歓会について、各地区においても会員に出席を推奨していただくよう依頼

**(3) 今期内に重点的に取り組みたい医師会運営・事業の方向性（その3）****多職種ネットワーク受託事業の促進・展開について**

標記事業の方向性のうち、多職種ネットワーク受託事業の促進・展開に関しネットワーク活用分野の拡大や参加推進活動の展開等について資料により説明

**(4) 西多摩医師会向けサーバーリスク（情報漏洩）保険加入について**

資料により、今後の当会IT業務に係る標記保険への加入必要性・費用見積もり等について説明・紹介

**【4】その他**

○総務部より今後の理事会行事と次年度の社員総会に向けた準備等について予定日程表により説明・告知

## 会員通知

- 会報11-12月号
- 宿日直表（青梅・福生・阿伎留）
- 学術講演会（11/14、11/19、11/20、11/29、12/3、12/9、12/5、12/10、12/11、12/12、12/17、1/17）
- 令和元年度青梅市医師会勉強会（9/26）
- 産業研修会（12/7町田市医師会）
- ” （2/8 帝京大学医師会）
- ” （12/14 三鷹市医師会）
- ” （3/14.15 日本大学医師会）
- ” （2/29.3/1 東京都医師会）
- 個人防護具着脱訓練（11/27）
- 忘年クリスマス会ご案内（12/4）
- 在宅療養ワーキンググループ開催における

**傍聴のご案内**

- インフルエンザ情報（第3号、第4号、第5号）
- 台風19号に伴う災害の被害者に係る一部負担金等の取扱いについて
- ヒアりに刺された場合の留意事項について
- 青梅市立総合病院地域連携学習会
- 青梅市立総合病院新病院建設近隣説明会
- 「特定接種管理システム」申請受付再開について
- ラニチジン塩酸塩における発がん物質の検出について
- 地域連携がんセミナー（青梅市立総合病院）
- 令和元年第3期西多摩医師会諸会費請求書

- 令和2年新年賀詞交歓会のご案内
- 第2回西多摩在宅医療講座受講者募集のお知らせ
- 医療従事者向け梅毒研修(後期)
- 年末年始宿日直表(公立阿伎留医療センター)
- 青梅市立総合病院診療スキルアップ研修会
- 令和元年第3回東京JMA T研修会
- 「がん治療連携指導致料」の施設基準届出に係る連携保険医療機関の新規追加及び届出内容の変更等について(令和2年1月1日算定)
- 予防接種法施行規則の一部を改正する省令の公布および「定期の予防接種等による副反応疑いの報告等の取扱いについて」の一部改正について
- 医薬品、医療機器・再生医療等製品等の副作用・感染症・不具合の報告のお願い
- 2019/2020シーズンのインフルエンザの供給について
- 生活保護における文書料の周知等について
- 四種混合ワクチンの自主回収について
- 「成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律」の施行に伴う「医療法人の機関について」の改正について並びに厚生労働省関係省令の整備等に関する省令の公布について
- 平成31年度第7回母子保健研修(12/10)「母子保健における感染症対策」
- 西多摩保健所だより
- 福生・五日市・青梅警察署詐欺メール、電話に気を付けてください
- 東京都精神科医療地域連携事業主催講演会(11/21)
- 第95回多摩医学会抄録
- 里親制度ポスター
- 令和二年新年賀詞交歓会開催のご案内(1/18)
- がん検診の結果に関する正確な通知について
- 2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした、風しん・麻疹に関する特別対策の実施について
- 東京都難病・がん患者就業支援奨励金のご案内
- 皮膚科外来について(青梅市立総合病院)
- 心肺蘇生を望まない傷病者への対応に関する協力をお願い
- 「がん登録等の推進に関する法律」に基づく指定診療所の募集について(依頼)

## ■■■■ 医師会の動き ■■■■

|       |              |        |     |
|-------|--------------|--------|-----|
|       | 令和元年12月19日現在 |        |     |
| 医療機関数 | 194          | 病院     | 30  |
|       |              | 医院・診療所 | 164 |
| 会員数   | 539          | 正会員    | 207 |
|       |              | 準会員    | 332 |

### 会議

|        |                    |
|--------|--------------------|
| 11月10日 | 定例理事会              |
| 26日    | 定例理事会              |
| 12月4日  | 忘年クリスマス会           |
| 10日    | 第3回西多摩地域脳卒中医療連携検討会 |
| 10日    | 定例理事会              |
| 12日    | 第3回西多摩地域糖尿病医療連携検討会 |
| 19日    | 広報部会(会報編集)         |

24日 定例理事会

### 講演会・その他

|       |       |
|-------|-------|
| 11月7日 | 保険整備会 |
| 13日   | 学術講演会 |

#### 【一般演題】

演題:「心電図を活かした心房細動診療エッセンス  
～みなさんが知っている上室期外収縮の一步詳しい読み方・活かし方～」

演者:大島医院 院長

東京医科大学八王子医療センター  
循環器内科

兼任講師 大島 一太 先生

#### 【特別講演】

- 演題:「心血管インターベンションの新たな展開」  
 演者:公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会附属 榊原記念病院 循環器内科  
 主任部長 七里 守 先生
- 14日 学術講演会  
**【講演1】**  
 演題:「週1回製剤と配合錠が可能にするスムーズな糖尿病治療強化〜クリニカルイナーシャを乗り越えて〜」  
 演者:慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科 特任講師 田中 正巳 先生  
**【講演2】**  
 演題:「笑い等のポジティブな心理介入が 糖尿病治療に与える影響について」  
 演者:福島県立医科大学 疫学講座 主任教授 大平 哲也 先生
- 16日 西多摩地域糖尿病医療連携検討会 市民公開講座  
 糖尿病から透析にならない為に!〜糖尿病と腎臓病の関係〜  
 「腎臓病専門医と糖尿病専門医による講演」  
 青梅市立総合病院 腎臓内科部長 木本 成昭 先生  
 青梅市立総合病院 内分泌糖尿病内科副部長 足立淳一郎 先生
- 18日 西多摩地域脳卒中医療連携症例検討会  
 1. 若年重篤患者の家族の受容段階に応じた看護  
 青梅市立総合病院 新4病棟 田中 瑞紀 氏  
 2. 日常生活動作の拡大に向けた病棟でのリハビリテーション看護  
 公立福生病院 4階西病棟看護師 原田 健司 氏  
 3. 在宅復帰目的で短期入院した若年性脳出血患者への関わり  
 (医財) 利定会 大久野病院
- 榛葉 智之 氏  
 4. 食べやすい、食べ方とは?〜脳卒中後遺症の摂食・嚥下の問題とは〜  
 (医社) 崎陽会 日の出ヶ丘病院 訪問リハビリテーション 言語聴覚士 薄井 陽平 氏  
 5. 脳血管疾患をもつ50代の利用者が在宅生活を送るにあたり、医療との連携において留意した点と今後の課題  
 (医社) 和風会梅の園訪問看護居宅介護支援センター介護支援専門員 西村 理恵 氏  
 6. 「帰りたくない」から「帰りたい」へ〜在宅復帰、在宅生活支援に向けた取り組み〜  
 (医社) 久遠会 介護老人保健施設 西東京ケアセンター 介護課 介護福祉士 田口 裕一朗 氏  
 7. 医療療養病棟において多職種連携により患者・家族の思いが変容した症例  
 一在宅復帰を目指した介入一  
 (医社) 三秀会 羽村三慶病院 PT 間宮 萩 氏  
 8. 在宅や施設での脳卒中発症時の対応について  
 (医財) 利定会 進藤医院 進藤 幸雄 先生
- 19日 学術講演会〜Diabetes & Incretin Seminar in 西多摩〜  
**【特別講演】**  
 演題:「2型糖尿病の薬物療法における体重管理」  
 演者:東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 分子内分泌代謝学分野  
 教授 山田 哲也 先生
- 20日 第28回西多摩呼吸器懇話会  
**【症例検討I】**  
 「胸部X線写真読影・解説」  
 青梅市立総合病院 呼吸内科 部長 磯貝 進 先生

- 【症例検討Ⅱ】  
「ご紹介いただいた症例のその後」  
東青梅診療所  
院長 武信 康弘 先生  
青梅市立総合病院 呼吸器内科  
副部長 大場 岳彦 先生
- 【特別講演】  
演題:「インフルエンザ診療に関する話題」  
演者:杏林大学医学部付属病院 感染症科  
准教授 倉井 大輔 先生
- 21日 法律相談
- 27日 個人防護具の着脱訓練
- 26日 糖尿病教室  
講義1:「糖尿病食を食べてみましょう」(試食有)  
講義2:「糖尿病と足ケア(神経障害)について」(看)
- 12月3日 学術講演会  
演題:「とるぞ息切れ、治るぞCOPD  
〜トリプル治療の夜明け〜」  
演者:東京医科大学八王子医療センター 呼吸器内科  
教授 寺本 信嗣 先生
- 5日 学術講演会  
【特別講演】  
演題:「注意すべき耳の疾患〜めまいと中耳炎、花粉症を含めて〜」  
演者:東京医科大学八王子医療センター 耳鼻咽喉科・頭頸部外科  
教授 小川 恭生 先生
- 9日 保険整備会
- 9日 学術講演会  
演題:「鋭敏なリスクマーカーとしてのSmall dense LDLコレステロール  
〜大規模臨床試験の知見を踏まえて〜」  
演者:海老名総合病院 糖尿病センター センター長 平野 勉 先生
- 10日 学術講演会  
【基調講演】  
演題:「COPDを取り巻く現状」  
演者:青梅市立総合病院 呼吸器内科 部長 磯貝進先生
- 【特別講演】  
演題:「良好な喘息コントロールを達成するための治療戦略」  
演者:東京医科歯科大学医学部附属病院 呼吸器内科  
教授 宮崎 泰成 先生
- 11日 学術講演会  
西多摩医師会こころのバリアフリー活動学術講演会  
【講演1】  
演題:「安易な睡眠薬投与がもたらすもの〜適正使用を目指して〜」  
演者:埼玉医科大学病院 救急科  
教授 上條 吉人 先生  
【講演2】  
演題:「認知症と睡眠のリンク」  
演者:東京医科歯科大学 脳統合機能研究センター 認知症研究部門 特任教授  
メモリークリニックお茶の水  
理事長 朝田 隆 先生
- 12日 学術講演会  
【講演Ⅰ】  
演題:「糖尿病合併症CKD診療のポイント西多摩版2019について」  
演者:野本医院  
院長 野本正嗣先生  
【特別講演】  
演題:「糖尿病治療Up to Date〜日野方式・微量アルブミン尿検診をふまえて〜」  
演者:佐野厚生総合病院 院長・透析センター長 村上 円人 先生
- 17日 学術講演会  
【特別講演】  
演題:「C型慢性肝炎とC型非代償性肝硬変に対する抗ウイルス療法」  
演者:日本大学医学部内科学系消化器肝臓内科学分野  
准教授 楡井 和重 先生



**役員出張**

11月6日 西多摩保健所開所式  
 9日 第95回多摩医学会講演会  
 10日 東京都災害医療図上訓練  
 13日 地域医療構想在宅療養ワーキンググループ  
 15日 西多摩地区病院連絡協議会・西多摩地区病院会合同懇親会  
 発足60周年記念式典  
 15日 地区医師会長連絡協議会  
 24日 西多摩地域広域行政圏協議会地域包括ケアシステム連携事業講演会  
 29日 新型インフルエンザ等感染症地域医療体制ブロック協議会  
 30日 多摩地区医師会懇話会  
 12月16日 東京都医師会役員就任披露ならびに年末懇親会  
 18日 生活保護法指定医療機関指導調査立会  
 20日 地区医師会長連絡協議会

**【入会会員】(正会員)**

氏名 坂本 恵  
 勤務先 青梅耳鼻咽喉科(新規開業)  
 出身校大学 東京医科歯科大学  
 平成17年3月卒

**【新規開業】**

氏名 坂本 恵  
 施設名 青梅耳鼻咽喉科  
 所在地 青梅市新町2-16-2

**【入会会員】(準会員)**

氏名 古味 良亮  
 勤務先 公立阿伎留医療センター  
 出身校大学 岩手医科大学 平成26年3月卒

氏名 矢部 顕人  
 勤務先 青梅市立総合病院  
 出身校大学 東邦大学 平成25年3月卒

氏名 鈴木 亮士  
 勤務先 奥多摩病院  
 出身校大学 自治医科大学 平成22年3月卒

氏名 小倉 拓  
 勤務先 公立福生病院  
 出身校大学 山梨医科大学 平成17年3月卒

氏名 高野 夏希  
 勤務先 公立福生病院  
 出身校大学 日本医科大学 平成23年3月卒

氏名 内野 祥子  
 勤務先 公立福生病院  
 出身校大学 弘前大学 平成27年3月卒

氏名 島井 和子  
 勤務先 島井内科小児科クリニック  
 出身校大学 東邦大学 平成22年3月卒

**【退会会員】(準会員)**

氏名 内野 祥子  
 勤務先 公立阿伎留医療センター

氏名 久金 翔  
 勤務先 公立福生病院

氏名 佐藤 さゆり  
 勤務先 公立福生病院

氏名 坂本 恵  
 勤務先 青梅市立総合病院

**【所在地変更】**

(医社) 光輝会 ひかりクリニック  
 (新) 福生市本町95番地3  
 メディケア953-2・3・4・5階  
 (旧) 福生市志茂35番地1

**【法人化による開設者・名称変更】**

(新) (医社) 来橋会 ばば子どもクリニック  
 理事長 馬場 一徳  
 (旧) ばば子どもクリニック 馬場 一徳

## お知らせ

## 事務局より お知らせ

## 保険請求書類提出

令和2年2月（1月診療分） **2月7日（金）** 正午迄

令和2年3月（2月診療分） **3月9日（月）** 正午迄

（締切日以前の提出も可能です）

## 法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 堀 克己先生による法律相談を

毎月**第3木曜日**午後2時より実施いたします。

お気軽にご相談ください。

◎相談日 **2月13日（木）**（第2週に変更になっています）  
**3月19日（木）**

◎場 所 西多摩医師会館

◎内 容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・  
刑事に関するどのようなものでも結構です。

◎相談料 無料（但し相談を超える場合は別途）

◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。

（注）先生の都合で相談日を変更することもあります。

## 表紙のことば



「元日のダイヤモンド富士」  
（多摩川左岸の日野橋梁付近の  
土堤より）

ダイヤモンド富士は、気象条件が揃ったときに見ることのできる光の芸術である。皆既日食の際の「ダイヤモンドリング」になぞらえてこう呼ばれている。富士山頂から東側の南北35度以内の範囲では、年二回の日没時に観察できる。

この日の多摩川は、正月を寿ぐ美しい光彩に包まれた。ソフトクリームのような冠を戴いた神々しい富士を眺めるたびに、最も高い山が最も美しい山であるという、日本人に生まれた幸運を思う。

日の出町 日の出ヶ丘病院 神尾重則

## あ と が き

令和という元号も、時代の風景に溶け込むように、しっくりと馴染みはじめた。その中で、日本中を歓喜と狂騒の渦に巻き込んだのが、ラグビーワールドカップ（RWC）日本代表の獅子奮迅の活躍であった。

前回RWC（英国）のエディから今回REC（日本）のジョセフへのヘッドコーチの交代は、紆余曲折はあったものの、新たな進化へのスイッチがオンとなるトリガーであったことは確かである。

リーチを中心に「one team」一つとなった団結力は、心理学でいう「ミラー効果」を呼び起こし、ラグビーの基本精神である「one for all, all for one」の体現は、多くの人々の心を動かした。

99%やっても1%サボったら負けてしまう。勇気とチームメイトへの信頼。フェアプレーとノーサイドの精神。プライドがなければ体を張ることができないのがラグビーである。

フィットネス（持久力）を鍛え、キックを多用し、ダイバーシティー（多様性）を活用。周知な準備とハードワークに裏打ちされた、連続攻撃とオフロードパス、タックルとスクラムそしてブレイクダウン・ジャッカルは白眉であった。

南アと日本の試合を見ながら、「勝者には何もやるな」というヘミングウェイの言葉を

思い出した。勝者には勝利以外の勲章はいらないという、勝者への最大の讃辞である。そして、敗者にも勝者にまさるドラマが、その背後には秘められているはずであるという対戦相手をリスペクトする言葉なのに違いない。

今年は東京オリンピックイヤーである。日本選手が騎虎の勢いでヴィクトリーロードを駆け抜ける姿を思い描くとき、心は弾む。ふたたび日本中が、沸き立つような歓声に包まれることを祈りたい。

日の出町 日の出ヶ丘病院院長 神尾重則

一般社団法人 西多摩医師会

令和2年1月1日発行

会長 玉木一弘 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-167-12 TEL 0428 (23) 2171・FAX 0428 (24) 1615

会報編集委員会 古川 朋靖

栗原 教光 土田 大介 鹿兒島武志 奥村 充 神尾 重則 近藤 之暢  
菊池 孝 進藤 幸雄 前田 暢彦 松崎 潤 松本 学

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428 (22) 3047・FAX 0428 (22) 9993



お客様の幸せづくり  
たましん

多摩の  
未来を創る  
たまたまばこ



RISURU

©2003, 2018 SANRIO CO.,LTD.  
APPROVAL NO. G583590

リスルはたましんのオリジナルキャラクターです



Makes your happy life.

たましんは、  
お客様の幸せとともに  
歩み続けます。

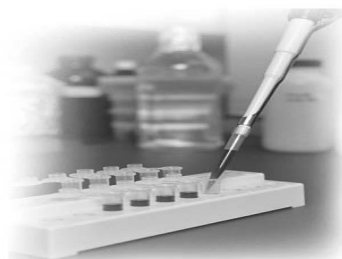


多摩信用金庫 <http://www.tamashin.jp>

## 生命の輝きをみつめ

“いつの時代も、地域医療とともに”

ひとりひとりの健康で豊かな社会生活を掲げ  
地域に根ざした検査所として歩んできました。  
高度な技術と最新の設備で地域医療の  
さまざまなニーズに対応しています。



登録衛生検査所



株式会社 武蔵臨床検査所

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢 309-8

TEL ; 04-2964-2621 FAX ; 04-2964-2621

URL ; <http://www.e-musashi.co.jp>

## 健康の通信簿



健康ってどうやって調べるんだろう？

宿題やテストではわからないよね。

体の通信簿ってあるのかな？

成績悪いとおこられちゃう？

パパやママの成績がいいとうれしいな。



臨床検査事業

臨床検査/遺伝子検査/予防医学/治験検査



医療情報システム事業

電子カルテシステム販売・保守



関連事業

食品衛生検査/環境検査/歯科検査



臨床検査は健康な未来への道しるべ  
バイオシステムで医療に貢献します

株式会社ビー・エム・エル  
<http://www.bml.co.jp/>

本社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-21-3 TEL.03-3350-0111 (代表) FAX.03-3350-1180  
BML総合研究所 〒350-1101 埼玉県川越市の場1361-1 TEL.049-232-3131 (代表) FAX.049-232-3132